

官報

號外 昭和二十一年十月十二日

○(第九十回) 貴族院議事速記録第四十三號

(帝國議會)

昭和二十一年十月十一日(金曜日)午前

十時十八分開議

議事日程 第四十三號

昭和二十一年十月十一日

午前十時開議

第一 貿易資金特別會計法案(政

府提出、衆議院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第二 產業復興營團法案(政府提

出、衆議院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第三 自作農創設特別措置法案

(政府提出、衆議院提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第四 農地調整法の一部を改正す

る法律案(政府提出、衆議院送

付) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第五 戰時補償特別措置法案(政

府提出、衆議院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第六 金融機關再建整備法案(政

府提出、衆議院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第七 特別和議法案(政府提出、

衆議院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第八 大藏省預金部等損失特別處

理法案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第九 厚生年金保險法及び船員保

險法特別案(政府提出、衆議院

送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十 企業再建整備法案(政府提

出、衆議院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第十一 財產稅法案(政府提出、

衆議院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第十二 財產稅等收入金特別會計

法案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

貴族院議員ニ任ぜラレマシタ、就キマ

シテハ部屬ヲ第五部ニ定メマシタ

○議長(公爵徳川家正君) 昨十日宗秩

寮總裁ヨリ治憲王殿下本年七月三日御

成年ニ達セラレマシタ旨ノ通牒ガゴザ

イマシタ、又同日宮内大臣ヨリ治憲

ラレマシタニ付、御允許奏請ノ處、本

業特別會計における昭和二十

年年度の經費支辨のための借入金

等に關する法律案(政府提出、

衆議院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

「参考」
一昨九日本院ニ於テ可決シタル左ノ政
府提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ
旨ヲ衆議院ニ通知セリ
昭和二十一年度改定歲入歲出總豫算
追加案(改第一號)
昭和二十一年度特別會計改定歲入歲
出豫算追加案(改特第一號)
昭和二十一年度改定歲入歲出總豫算
追加案(改第二號)
昭和二十一年度特別會計改定歲入歲
出豫算追加案(改特第一號)
昭和二十一年度改定歲入歲出總豫算
追加案(改第二號)
復興金融金庫及び產業復興營團出資
拂込金支辨のための公債發行に関する
豫算外國庫の負擔となるべき契約を
爲すを要する件
恩給法臨時特別案
同日本院ニ於テ可決シタル左ノ建議ハ
文書ヲ以テ即日之ヲ政府ニ呈出セリ
議會圖書館ノ設立ト國立圖書館ノ擴
充ニ關スル建議
同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ
貿易資金特別會計法案可決報告書
產業復興營團法案可決報告書
昨十日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出
セリ
自作農創設特別措置法案可決報告書
農地調整法の一部を改正する法律案
可決報告書
戰時補償特別措置法案可決報告書
金融機關再建整備法案可決報告書
大藏省預金部等損失特別處理法案可
決報告書
厚生年金保險法及び船員保險法特
別可決報告書

企業再建整備法案可決報告書
財產稅法案可決報告書
財產稅等收入金特別會計法案可決報
告書
企業整備資金措置法を廢止する等の
法律案可決報告書
公債發行に關する法律案(政府
提出、衆議院送付)
第一讀會ノ續(委員長報告)

明治二十九年三月三十一日
第三種郵便物認可

官報號外

産業復興團法案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依
テ及報告候也

昭和二十一年十月九日

貴族院議長公爵徳川家正殿
委員長子爵植村家治

〔子爵植村家治君登壇〕

○子爵植村家治君 只今上程セラマシタ
シタ貿易資金特別會計法案及ビ産業復
興團法、兩案ノ特別委員會ニ於ケル
審議ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマ
ス、特別委員會ハ去ヌル日、付託ヲセ
ラマシテ、昨日迄三回、例ノ如ク初
日ハ委員長、副委員長ノ選舉ヲ行ヒマ
シテ、後審議ニ移リマシタ、政府ヨリ提
案ノ理由トシテ貿易ニ關スル經理ハ、
昨年十二月貿易資金設置ニ關スル法律
ニ依リ輸出入ノ決済資金ヲ設ケテ其ノ
運營ヲナサシメ、其ノ生ジタル歲入出
ハ便宜ノ處置トシテ爲替交易調整特別
會計ニ所屬セシメタルモノヲ、今回貿
易ノ經理ヲ尙一層明確ニスルト共ニ、
其ノ運營ヲ益々圓滑ニセムニハ、現行
法ヲ廢シ、新タニ本法ヲ設置スルヲ適
當ト認メタリトノ理由ヲ述べテ居リマ
ス、質疑ノ大要ヲ申上ゲマス、對外貿易
問題ハ、聯合國司令部ノ指令ニ基クハ
勿論ナルモ、輸出入何レガ超過セリヤ、
之ニ對シテ答ヘラレテ、輸出入ハ三十
四億七千六百萬圓中、輸入超過二億八
千八百萬圓、其ノ他棉花輸入製品トシ

テ輸出ヲ見込ム故ニ、計算中ニハナイ
ト答辯シテ居リマス、之ヲキツカケニ
對シ、今日ノ經濟ハ國內事情ニ於テ正
式ナル輸出入機關モナク、其ノ取扱方
針ヲ立て居ラズ、唯業者ノ要望ニ依ツ
テ間ニ合セたる立テ方ノミニシテ、他
日正當貿易開始ノ砌リノ整備ニ俟ツ外
ナシト、又貿易廳ニ於テハ、先方ニハ
必ズヤ爲替相場ガアルダラウカラ、其
ノ片鱗ダケデモセメテ知リタシト種々
手ヲ盡シタルモ、要スルニ先方ハ、日本
ノ輸出物ヲ先づ勝手ト言ハバ語弊ガア
ルガ、先方ハ自由ナル立場デ「ドル」ニ
換算シタト云フ範圍ニ於テ、當方ニ要
スル食糧トカ肥料トカラ、日本ノ要請
ニ基ク有ラユル物資ヲ出シテヤラウト
言フ、當方ニハマア嚴格ナル制限アル
ノミト答ヘテ居リマス、又資金ハ幾ラ
カトノ問ニ對シマシテハ、貿易資金ノ
元手トシテハ五千萬圓デアツタガ、其
ノ操作ニ依ツテ多額ノ轉換ガ出來テ居
タ、今回本法ニ依ル總額ハ五十億圓迄
ヲ預金部ナリ、日本銀行ナリテ貿易廳
ガ借金出來ルヤウニナツテ居ル「クレ
ジット」設定問題ノ問ニ對シマシテハ、
テ、日本ノ法律政治ノ行キ道ガ決ラヌ
居ル、新電法ガ出來、附屬法規ガ出
テ、日本ノ法律政治ノ行キ道ガ決ラヌ
ダ決ラヌシ、賠償施設ノ撤去確定シ
テ、日本ノ評價確定シ得ヌ今日、其ノ

設定ニ要スル條件ガ確定シ得ヌシ、又
ト答辯シテ居リマス、之ヲキツカケニ
對シ、今日ノ經濟ハ國內事情ニ於テ正
式ナル輸出入機關モナク、其ノ取扱方
針ヲ立て居ラズ、唯業者ノ要望ニ依ツ
テ間ニ合セたる立テ方ノミニシテ、他
日正當貿易開始ノ砌リノ整備ニ俟ツ外
ナシト、又貿易廳ニ於テハ、先方ニハ
必ズヤ爲替相場ガアルダラウカラ、其
ノ片鱗ダケデモセメテ知リタシト種々
手ヲ盡シタルモ、要スルニ先方ハ、日本
ノ輸出物ヲ先づ勝手ト言ハバ語弊ガア
ルガ、先方ハ自由ナル立場デ「ドル」ニ
換算シタト云フ範圍ニ於テ、當方ニ要
スル食糧トカ肥料トカラ、日本ノ要請
ニ基ク有ラユル物資ヲ出シテヤラウト
言フ、當方ニハマア嚴格ナル制限アル
ノミト答ヘテ居リマス、又資金ハ幾ラ
カトノ問ニ對シマシテハ、貿易資金ノ
元手トシテハ五千萬圓デアツタガ、其
ノ操作ニ依ツテ多額ノ轉換ガ出來テ居
タ、今回本法ニ依ル總額ハ五十億圓迄
ヲ預金部ナリ、日本銀行ナリテ貿易廳
ガ借金出來ルヤウニナツテ居ル「クレ
ジット」設定問題ノ問ニ對シマシテハ、
テ、日本ノ法律政治ノ行キ道ガ決ラヌ
居ル、新電法ガ出來、附屬法規ガ出
テ、日本ノ法律政治ノ行キ道ガ決ラヌ
ダム」宣言ニ於テ日本國ハ其ノ經濟ヲ
支持シ、公正ナル實物賠償ノ取立テ
可能ナラシムルガ如キ產業ヲ維持スル

コトヲ許サルベシ、但シ右目的ノ爲原料
ノ入手ヲ許可サルベシ、日本國ハ將來
世界貿易關係ヘノ參加ヲ許サルベシト
規定シアリ、之ニ依ツテ最先キニ纖維
工業ノ續行、原料入手ノ許可ガアリタ
ルガ、其ノ他ノ雜貨工業、原料ノ入手
ニ關シテハ如何、又現在ノ監視下ハ平
和會議迄カ、其ノ以後モ尙續クノカ、
ノ深切失心ニ依ル弊害ト、検査後ノ當
局ノ監督上ニ如何ニ考ヘルヤトノ問ガ
アリ、答ヘテ、實際ニ於ケル商道義心
ノ缺陥ニ依ル其ノ弊害ハ認メテ居ル
シ、之ガ爲、貿易全體ニ大イニ迷惑シ
テ居ル所デ、廉賣競爭ノ弊ヨリシテ、
國ノ損害ハ非常ニ大キク、現狀ノ貿易
又追出スコトヲモ考ヘテ、其ノ監督ヲ
カ不幸カ知リマセヌガ、今後ハ自主的
強化スルト答ヘテ居リマス、要スル
検査ト國營檢查ヲ強化シ、萬一不良物
ヲ出シタ業者ニハ、遠慮モシテ貰ヒ、
ニ粗製濫造ヲ矯メ、値段ヨリ品質ヲ考
ヘサセテ、國家的意識デ造ラセ、國家
的意識デ輸出サス空氣ニ進メテ、貿易
上、將來望ミヲ絶ツガ如キ結果ヲ極力
防ギ、假令其ノ製造、第三國人ノ品デ
決リ、其ノ生産力ガ立チ行クノ時、初
メリ日本ノ圓ノ購買力ガ外國ニ對シテ
存機關ノ種類ニ依リ貿易產業ノ種類ガ
ガ平和的民主國家ニナリ切ルコト、
マス、要スルニ答辯ノ大半ハ前述答辯
此ノ宣言ニ依リ漸次増加スルコトヲ希
望シ、折角交渉中ナリト答辯シテ居リ
ク、基礎資材及ビ輸出用原材料等ハ、
ノ他ハ棉ガ大部分デ、油脂類、工業
鹽、銑鐵等アルモ、孰レモ具體的デナ
テ、石油ガ八分、燒石三分二厘、其
ノ強化スルト答ヘテ居リマス、要スル
ニ粗製濫造ヲ矯メ、値段ヨリ品質ヲ考
ヘサセテ、國家的意識デ造ラセ、國家
的意識デ輸出サス空氣ニ進メテ、貿易
上、將來望ミヲ絶ツガ如キ結果ヲ極力
防ギ、假令其ノ製造、第三國人ノ品デ
決リ、其ノ生産力ガ立チ行クノ時、初
メリ日本ノ圓ノ購買力ガ外國ニ對シテ
存機關ノ種類ニ依リ貿易產業ノ種類ガ
ガ平和的民主國家ニナリ切ルコト、
マス、要スルニ答辯ノ大半ハ前述答辯

度ノ自由貿易ガ出來テ、參加ガ出來
メテ日本ノ圓ノ購買力ガ外國ニ對シテ
分ル、其ノ分ツタ時、初メテ日本ト或
程度ノ自由貿易ガ出來テ、參加ガ出來
メテ日本ノ圓ノ購買力ガ外國ニ對シテ
顧慮スルコトナク、生產遂行ニ全力ヲ
集中シ、其ノ達成ヲ圖ルガ堅要ノコト
營ヲナサシメ、金融面ニモ他ノ事情ヲ
顧慮スルコトナク、生產遂行ニ全力ヲ
集中シ、其ノ達成ヲ圖ルガ堅要ノコト
集め、之ニ依リ、國又ハ其ノ代行機關ニ
於テ設備建設ノ負擔等ヲ全面的ニ負ヒ
テ、國ノ犠牲大トナルモ已ムヲ得ズト
シ、又營團ニ於テ設備建設等ヲ行フ場

等々、國民經濟復興再建ニ最必要ナルモノニ限定シ、企業上ニ於テモ國ノ犠牲ヲ以テ過度ノ利潤ヲ抑制シ、運營全般ニ瓦リテモ、必要ナル監督ヲ加ヘツ、進ム方針ヲ執ル、業務モ其ノ性質上國ニ於テ行フコトトシテ、日本ノ今日、行政組織ノ實情ニ於テ機敏ナル活動ヲ妨グル等ノコトアツテハト懸念シテノ上ハ、之ガ自由ヲ講ズルニハ、又經濟界ノ權威者ノ手腕ヲ俟ツコトトシ、之ニ依ツテ事務ノ捌キヲ圓滑敏速ニシ、國ノ監督下ニ特別ナル機構タル本法ノ如キ產業復興營團ヲ設立スルガ適當トスル見地カラ、之ガ設置ヲナシ、強力且、清新ナル國策遂行機關トスルニアリ、而シテ從來ノ產業設備營團ハ之ヲ解散シテ、本法案ノ營團ヲ設置スル所以ナリト説明シマシタ、今質疑ノ大要ヲ述べマスト、從來ノ產業設備營團ノ業績ハドウカト問ハレマンダ、之ニ對シテ答へテ、舊營團ハ戰時中喫緊ノ產業設備建設ニ未働遊休設備ノ活用、標準型船舶ノ建造ヲ目的トシ、總額三十億圓程度ヲ要シタル成績ヲ擧ゲタリト答ヘテ居リマス、又一質問ニ、新營團運營ノ成否ハ、結局役員ニ其ノ人ヲ得ルカ否カニ懸ツテ居ルト思ハレルカラ、其ノ人選ニ付テハ、廣ク手腕力量ノ優レタ有能ノ士ヲ求メラタイトノ希望ニ對シ、商工大臣カラ、十分御趣旨ヲ尊重シテ其ノ人選ニ當ルコトトシ、特ニ新營團ハ今後中小工業ノ振興方面ニモ力ヲ注グコトトナルノデ、中小工業ニ理解アル方ニモ役

員ニ參加シテ戴キタイト考ヘテ居ル旨
ノ答辯ガアリマシタ、又新營團ノ資金
ハ、原則トシテ復興金融金庫カラ融資
ヲ受ケルコトナツテ居ルガ、金庫ハ
國家資金ヲ使用スルノデ、ソレダケ「イ
ンフレ」ヲ助長スルコトナルカラ、
債券ヲ公募シテ、市中カラ資金ヲ吸收
スル方ガ「インフレ」防止ノ上カラ適當
デアルト考ヘルトノ質問ニ對シ、商工
大臣カラ、今後市中ノ金融機關カラモ
ドシ／＼資金ノ融通ヲ受ケルヤウ、關係
方面トモ折衝シテ努力シタイ旨ノ答
辯ガアリマシタ、尙營團資金二億圓ノ
算出方ハドウカト云フ問ニハ、固定設
備ニハ復興金融金庫ヨリ融通スルノ
外、大體資本金二億圓ガ適當ナリト思
慮シタルニ止マリ、確乎タル論據ナ
シ、從來ノ設備營團モ二億圓ヨリ出發
シタルクノ例ニ依リ、一應新營團モ二
億圓程度トストノ答辯ガアリマシタ、
舊營團ト新營團トノ諸施設ノ關係ヲ聽
キタルニ對シマシテハ、舊營團ハ終戰
ト共ニ、現有設備ノ完備ト同時ニ、未働
遊休設備ノ活用ノ仕事ハ之ヲ中止シ、
建造中ニ屬スル船舶ハ引繼ギ、之ヲ造
上ゲル仕事ヲ爲ス船ノ方ハ來年前半期
位ニ完成スル見込ナルモ、新ラシキ
機關ニ依リ完成ヲ爲スノ仕組ト、新
營團ニテ引續ギ仕事ヲ爲ストノ意図
ヲモ存シテ居ル、斯シ述べテ居リマ
ス、又補償打切りニ依ル生産面ヘノ
打擊如何、殊ニ財產稅トノ關係ニ依
ツテ全滅ノ狀態ニ進ム心配アリ、
是等ノ打撃ヲ本法營團ニ依ルカ、又他

補償打切り問題が産業ニ重大ナル影響アリ思フガ、寧ロ後者ノ賠償關係ニ重大ナル面アリト信ズト言ツテ居マス、尙産業復興案ヲ樹立スル上ニハ、評償問題ガ困難デ、賠償機械ヲ一年内ニ取去ルニシテモ、撤去トカ荷造り費ニ非常ナ多額ノ費用ヲ要シ、四百億モ要スルガ、機械帳簿價格ハ何十分ノトナルカ、評價デアルガ、其ノ評價問題ニ依リテ將來ノ會社經營ニ影響スル處ガ重大デアツテ、時局ト共ニ潛在セル費用ガ多ク、現出シアル價格少ク、一體ノ評價ハ意味ヲナサズト思フ、之ニ依ツテ迷フ者多シ如何トノ間ニシ、答ヘテ、誠ニ困難ナコトデ、本法案提案遲延モ、之ニ因スト述べ、會社未拂达株ヲ徵收スルコトヤ、評價益デ含ミヲ以テ、成ルベク整理會社ニシナシ、答ヘテ、誠ニ困難ナコトデ、然ラバ水膨レ切開ノコトモナラズ、評議ヲ重ネタノデアリマシテ、帳簿價格ハ不自然、古キハ非難ノ的トナリ、結果勝手ニ評價ハセヌデ、企業整備委員會ニ於テ妥當ニ價格ヲ決メル外途ナキデアラウニ歸決シタド答辯シテ居マス、商工省ト經濟安定本部トノ關係ハ本部ハ主トナルノ問ニ對シ、經濟安定本部ニシ、商工省ハ本營團ニヤラスノカ、商工省ノ指導監督ハ從トナリ、經濟安定本部ハ主トナルノ問ニ對シ、經濟安定本部ニシ、商工省ハ本營團ニヤラスノカ、商工省ニテハ、基本的産業政策ノ決定ヲ爲シ、商工省ニテハ、之ガ實施ヲ爲

希望決議

シ、産業關係者、即チ營團ニ於テ施行
サスガ建設前デアル、營團亦經濟安定本部
ノ政策ノ線ニ沿ヒテ其ノ枠内ニ於テ仕
事ヲ決定スル、商工省ハ兩者ノ政策ヲ頭
ニ置キ、主務大臣之ヲ指導監督スル、經濟
安定本部ト營團トノ直接間ニ於テハ、
是等ノ指導監督ハナイト答ヘテ居リマシテ、
ヨリ、此ノ際本案ニ對シマシテ、希望
決議ヲ附シテ本案ニ贊成セラレマシ
タ、而シテ別ニ他ニハ意見セナク、討
論ヲ終結致シマシテ採決ニ入りマシタ
ル處、原案通り可決シ、希望決議案ニ
對シテモ可決ヲ致シタノデアリマス、
茲デ希望決議ヲ讀ミ上ダマス、

徵ガ對等ナクナツタ今日デモ、國民ノ血ハ尙沸キ上ツテ居ルニ拘ラズ、外國貿易ニモ對等ナ自由ヲ見出シ得ザル遺憾アリ、產業復興面ニハ國內的諸法律政治ガ確立シテ、刷新セル活動ヲ期シタシ、政府亦宜シク是等ノ諸問題ノ整備ノ完遂ニ努メ、又生産道義ノ昂揚ヲ圖リテ、自覺アル行動ニ國民ヲ指導シ、政府ノ信ズル政治體系ノ文化ニ寄與セラレ、以テ對外的ノ信義評價ヲ高ムルノ外ニ途ナシ、右ニ非ザレバ貿易ノ振興向上ノ上ニモ、產業復興ノ面ニモ其ノ意義ナラザルベシ、今次顯現セル「ゼネスト」ノ問題ノ如キハ、對外的に影響シテハ、日本ノ破滅トナリ、其ノ信ヲ失シ、敗戦ノ慘メサヲ一層助長シ、國家國民ヲ滅亡ニ導クコト明カナリ、實ニ慨歎ニ堪ヘズ、政府宜シク重大ナル決意ヲ以テ、新憲法創定ノ秋、更生日本、新國家國民ヲ救ヒ、眞ノ民主主義立憲國タラムコトニ最光ギ断乎トシテ護リ抜カレムコトヲ強請スル、ザイマセカ

○議長(公爵徳川家正君) 西大路子爵
ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家正君) 御異議ナイ
ト認ヌマス

○議長(公爵徳川家正君) 兩案ノ第一
讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ、
全部ヲ問題ニ供シマス、兩案全部、委
員長ノ報告通リテ御異議ハゴザイマセヌカ
ト認ヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家正君) 御異議ナイ
ト認ヌマス

○子爵西大路吉光君 直チニ兩案ノ第
三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマスカ
ト認ヌマス

○子爵梅園篤彦君 贊成

ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家正君) 西大路子爵
ト認ヌマス

○議長(公爵徳川家正君) 御異議ナイ
ト認ヌマス

○議長(公爵徳川家正君) 御異議ナイ
ト認ヌマス

委員長報告、是等ノ兩案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ゴザイマセヌカト認メマス、委員長稻田男爵
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○議長(公爵徳川家正君) 御異議ナイ
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也
昭和二十一年十月十日
委員長 稲田 昌植
貴族院議長公爵徳川家正殿
農地調整法の一部を改正する法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也
昭和二十一年十月十日
委員長 稲田 昌植
貴族院議長公爵徳川家正殿
〔男爵稻田昌植君登壇〕
○男爵稻田昌植君 自作農創設ニ關シマスル委員會ノ御報告ヲ申上ゲマス、此ノ特別委員會ハ昨日ノ最終ノ委員會ニ於キマシテ、二三ノ委員ヨリ、此ノ法律ノ施行ニ當リマシテ、特ニ運用ニ萬全ノ注意ヲシテ貰ヒタイト云フ御發言ト共ニ、政府原案通り可決確定ラ申シマシタ、是ヨリ委員會ノ經過ヲ御報告申上ゲタイト思ヒマス、今回ノ政府提出ノ自作農創設ニ關シマスル法律案ハ、所謂第二次農地改革ト言ハレルノデアリマシテ、第一次農地改革案ト申セシマスモノハ、前議會ニ於テ決定サレタモノニアリマス、其ノ前議會ニ於テ

決定サレマシタ第一次農地改革ト申シ
マスルモノハ、生産増強及ビ農村民主化ノ二大目標ノ下ニ、小作料ノ金額化及ビ自作農創設、農地委員會ノ開設ト申シタ方法デ行ハレタノデアリマスル第二次ノ農地改革ト言ハレマスル此ノ兩案ハ、第一次農地改革ノ中ノ自作農ヲ更ニ擴大化シタ案デアリマス、前回ノ第一次農地改革ノ中ノ自作農ヲ特ニ「クローバー・アッパー」シタ案ト御承知下サレバ、大體此ノ第二次農地改革ト言ハレマス
案ノ全貌ガ御分リカト存ジマス、假ニ今申上ダマシタコトヲ法案ニ當テ執メテ申シマスト、其ノ「クローズ・アープ」シ、大寫シシタト申シマスノガ、自作農創設特別措置法案デアリ、之ニ關聯スル土地兼併ニ關スル規定、或ニ小作料ニ關スル規定、農地委員會ノ組織ナドニ關スル規定ヲ盛リマシタモノガ、農地調整法ノ一部ヲ改正スル法律案、斯ウ御承知下サレバ宜シイノデアリマス、尙此ノ自作農創設ニ關シマフタル法律ハ、自作農創設特別措置特別命令ガ、農地調整法ノ一部ヲ改正スル法律案ト云フノガゴザイマス、併シ計算法案ト云フノガゴザイマス、但シ委員會ニ於キマシテハ、此ノヤウヘナ最重要ナ法案ニ關シマスルモノハ、今デ、私カラ申上ゲル範圍外デアリマス
ハ外ノ委員會ニ付託サレテ居リマスルノデ、私カラ申上ゲル範圍外デアリマス
テ置キマス、此ノ兩案ノ要綱ハ相當數ノ上リマスルガ、ソレヲ要約致シマツ
ツノ委員會ニ將來ハ併託ラシテ貰ヒタ
イト云フ意見ノ出タコトダケラ申添ヘ
部關聯シタモノデアリマスルノデ、一

ルト、最モ特徵ハ二ツニ分レテ居リマス、一ツハ開放面積ノ増大ト云フ點デアリマス、所謂不在地主ヲ全部ナグシマシテ、且在村地主モ、其ノ面積ヲ全國平均一町歩ニ限ル、自作者ニ對シマシテモ、平均三町歩以上ノモノヲ全部開放スルト云フコトニナリマスノデ、從ツテ全國ニ三百萬町歩ノ新自作農地ガ出来ルコトデアリマス、其ノ上第二ノ特徵ト致シマスルノハ、此ノ問題ニ關スル國家管理ノ強化デアリマス、土地ノ買收ハ一切國家自身ノ手デ之ヲ行ヒ、小作地ノ取上ハ總テ地方長官ノ認可ヲ必要トシ、再分配ノ爲ニ交換分合ヲ、之ヲ強制的ニ行フヤウナ點デ、國家管理ガ非常ニ強化サレタト云フ點、此ノ開放面積ノ増大及ビ國家管理ヲ強化シタト云フコトガ、今回ノ案ノ二大特徵ト申上ゲテ宜カラウト思ヒマス、以上ノヤウナ内容ヲ以チマシタ此ノ兩法案ノ審議ニ當リマシテ、審議ノ當初ニ先づ農林大臣カラ提案理由ノ説明ノアリマシタ後、關係方面トノ権組折衝ノ内容ヲ詳シク伺フコトガ出来マシタノデ、委員各々ハ恐ラクハ此ノ法案ハ一日も早く成立セザルヲ得ナイト思ハレタト看取致すレマス、從ツテ此ノ法案ノ字句或ハ條文等ライダルヨリモ、此ノ法案執行後ノ種々ノ方策ニ對シテ、質問ガ集中サレタノデアリマス、却テ因ハレナイ自由ナ、濶達ニ義論ガ行ハレタト、委員長トシテハ感ゼラレタノデアリマス、從ツテ其ノ御質問ノ内容モ、極メテ豊

富アアリ、其ノ量モ十分ノ量ガ盛リ入
マレ、孰レモ傾聽スベキ御議論デア
リ、總デ是レ傾聽スベキ論旨アリマ
スノデ、此ノ際此ノ取捨選擇ヲ御報告
申上ゲマスコトハ非常ニ困難ヲ感ジマ
ス、且御質問ハ直接ニ何等ノ關係ノナ
イ一問一答ヲ繰返シマスコトハ、却テ
御了解ニ如何カト存ジマスルノデ、不
十分ナガラ各委員ノ御質問ヲ二、三ノ
項目ニ分類致シマシテ、其ノ大要ヲ御
紹介申上ゲアルコトニ致シタイト思ヒ
スノデ、以上、何幸御了承ヲ願ツテ置
キマス、第一種ノ質問ト私ガ言ヒマス
モノハ、此ノ法案ノ通過後ノ將來ノ農村
業政策ノ根本ニ關シマスルコトデゴザ
イマス、此ノ質問ノ中心トナリマシタ
モノハ、一體政府ニ於テハ將來ノ農村
ヲ如何ニ見ルノデアルカ、將來ノ農村
ノ在リ方ト云フモノヲ如何ニ見ルノカ
ト云フノカラ「スタート」シタノデアリ
マス、政府當局ノ見解ニ依リマスル
ト、將來ノ日本農業ト云フモノハ、非
常ニ集約サレテ行ク、而モ勞力、資本
兩方面カラ集約サレテ行クモノト思ハ
レル、之ヲ協同組織デ進マシタイ、第
二ハ、世界ノ競争場裡ニ立ツ爲ニハ、
日本ノ將來ノ農業ハ現狀ヨリモ、遙カ
ニ多角經營ヲ必要トスル、斯ウ云フヤ
ウナ見解ヲ披瀝セラレマシタノデ、之
ニ關シテ質問ハ展開サレテ行ツタノデ
アリマス、第一ハ、今同ノ法律ノ實施
ヲ見ル場合ニ於キマシテハ、先程申シ
マシタ通り、地主ト云フモノハ可ナリ

影ヲ没スルコトニナル、併シナガラ從來ノ地主ハ必ズシモ搾取階級ト云フ譯デハナイ、封建政府ノ温床ノミデハゴザイマセタ、小作制度ト云フモノハ、經濟上或ハ社會上、立派ナ存在理由ヲ持ツテ居ル、然ルニモ拘ラズ、今回ノ農村ノ民主化ト云フ點デ、之ヲ總て拂拭サレルノアリマスルガ、從來ノ良キ地主ハ新ラシイ形ニ於テ是ハ殘スベキデハアルマイカト云フ御質疑ガアリ、政府モ是ニハ善處セラル、ダラウト思ヒマス、更ニ今回ノ土地ノ改革ハ成ル程是デ劃期的ノ改革ハ成功スルデアリマセウ、併シナガラ土地ノ改革ノミデ、農地ノ改革ノミデ農村及ビ農業ノ民主化ト云フモノハ斷ジテ是ハ出來ナイ、政府ハ土地ノ改革ノミニ進歩的デアツテハイケナイゾト云フヤウナ御議論ガ續出シタノアリマス、更ニ今度ノ改革デ、小作人ノ全部ガ、直チニ全部此ノ土地ヲ欲シイト云フ者ガナイヤウニ聞イテ居ルガ、何ヲ是ハ示唆シテ居ルカ、將來土地ヲ手ニ入レルガ爲ニ、却テ自己ノ負擔ニナルコトヲ恐レルノデハナイカ、自作農ハ作ルノハ宜シイガ、自作農ヲ作ツテ、自作農ニハナツタケレドモト云フ喫ヲ與ヘナイヤウニ盡力シテ貰ヒタイ、其ノ爲ニ此ノ經營ノ合理化ト云フコトヲ先程申上げマシタガ、其ノ他萬全ノ策ヲ講ジテ自農ニナルト同時ニ、其ノ日カラ小作農ニ新ラシク顛落スル「ページ」ヲ始メルト云フノデハ、此ノ法ノ目的ハ達

セラレナイト云フヤウナ、非常ニ御熱心ナ御質疑ガアツタノデアリマス、之ニ次イデ將來ノ指導方針ト云フモノガ問題トナリ、或ハ指導農場、或ハ農民道場、或ハ技術ノ渗透、或ハ中堅階級ノ良キ指導ナドノ問題ガ出て居ルノデアリマス、而シテ農村ノ思想問題トシテハ、可ナリ荒レニ荒レテ居リマスルケレドモ、未ダ良キ思想ガ癡ツテ居ル筈デアルノデ、之ヲ更ニ一層ノ努力ヲ以テ善導スレバ、將來ノ日本ノ農村ハ此ノ法律案通過ヲ機トシテ相當ノ效果ヲ挙ゲルデアラウ、相當ノ光彩ヲ放ツマデアラウト云フヤウナ政府側カラノ御答辯モアリ、委員モ了承セラレタ田ノノデアリマス、其ノ次ニハ第二種ノ私質問ト申上ゲルモノデアリマス、ソレハ他ノ法律トノ關係デアリマス、第一ニハ憲法、第二ニハ民法、第三ニハ華族世襲財産ナドトノ關係デアリマス、華族世襲財産トノ關係ハ、獨リ農地調整法トノ關係ノミナラズ、財產法トノ關係モアルノデアリマスルガ、是ハ近ク宮内省方面デ、之ニ關連テ善處セラレルコトト思ヒマス、ソレカラ憲法第二十九條三項トノ關係ハ、詰リ農地調整法ガ憲法違反ニ非ざト云フ御意見デアリ、更ニ民法、詰リ農業ノ方カラノ言葉デ言ヘバ、均分相

續ト言ハレル所謂細分農ノ問題デアリ
マスガ、詰リ均分相續シテ行キマス
ト土地ガ細分サレルノデ、之ニ何カ
例外規定ヲ求メルコトが出來ルカト云
フ御質問デアツタノデアリマス、是ハ
民法草案デハ、恐ラクハ現物デ分ケル
コトヲ要求シテ居ナイト思ヒマス、唯
問題ハ、現物以外負債ト云フコトノ問
題ガアリ、同時ニ土地經營ニ適スルモ
ノヲ選ブト云フヤウナ二點ニ集約サレ
ルト思フノデ、將來能ク研究ヲスルト
云フヤウナ政府側ノ御答辯デアリマ
ス、最後ノ第三種ノ質問ノ種類ト致シ
マシテハ、所謂此ノ實施ニ於キマスル
實現ノ可能性ト申シマスカ、サウ云フ
ヤウナ問題デアリマシタ、詰リ二箇年
デ二百萬町歩以上ノモノヲヤルト云フ
ノデアリマスルガ、從來ノ經驗カラ申
シマスルト、百年河清ヲ待ツト言ハナ
イデモ、非常ニ困難ガアル、果シテ政
府ニ於テハ、此ノ大面積ヲ此ノ短イ時
間デヤリキ自信ガアルカト云フ御質
疑デアリマス、政府ニ於キマシテハ、
所謂中央ニ於キマスル之ニ關スル一局
及ビ現地ニ於キマスル局、及ビ府縣ニ
於キマスル農地部ト假ニ言ハレテ居リ
オスルガ、其ノ部ト密接ナ連絡ヲ執ツ
テ、勿論是ハ二箇年デヤリ上ゲル積リ
ダ、斯ウ云ノノデアリマスガ、質問者
ノ意思ヲ付度致シマスルト云フト、從
來ノ方法カラ言フト、現ニ第一次ノ農
地改革法ガ出來マシテノ成績カラ言ツ

處分スル、況ヤ交換分合迄入レマス場
合ハ非常ナ困難ガ伴フ、ソレデナクテ
モ從來、各省間ニ於テモ種々ノ問題ガ
アル、治水ノ問題ニ於キマシテモ、砂
防ノ問題ニ於キマシテモ、或ハ地域別
ニ行ケバ北海道拓殖ノ問題ニ於キマシ
テモ、農林省ト内務省ハ種々モニ塵
擦ノナイコトガナイトハ言ヘナイ状態
デアル、此ノ状態ヲ成ルベク早く拂拭
シテ、且、食糧ノヤウナ各省擧ツテ協
力スベキ問題デアルニモ拘ラズ、動モ
スレバ供出ノ面ニ於キマシテ塵擦ガア
ル、或ハ收穫量ノ減少ナツテ現レル
ヤウナ場合モアル、是カラ見マスル
ト、ヨリ一層此ノ農地改革ニ關シマシ
テハ、十分ノ努力ヲシテ貴ヒタイト云
ノノガ質問者ノ意思デアルヤニ私ハ拜
察致シテ居リマス、以上デ大體ノ御質
問ヲ申上ゲ得タド思ヒマスルガ、討論
ノ終結以前、或ハ討議ノ場合ニ於キマシ
テ、此ノ法律ノ全體ヲ見マスルト、ド
ウモ偏狭性ヲ帶ビテ居ルヤウニ思ハレ
ル、不在地主ヲ全部一掃スルガ如キハ
其ノ一例デアル、更ニ地主ニ對シテ報
奨金ヲ出スト云フヤウナコトハ、見舞
金ト云フ意味カモ知ラヌガ、何カ地主
ニ對シテ氣ノ毒ダト云フヤウナ觀念ガ
潛在シテ居ルノデハナイカト云フヤウ
ナ點カラ言ツテ、要スルニ地主カラ安
ク買ヘタト云フコトハ、同時ニ小作人
リ、將來ノ兩者ト云フモノハ、サウ云
フ態度デ抑シ擴メテハ暗イ鬱ガ宿ル結

果ニナルデアラウ、從來天上地下ニ及
ブト言ハレマシタ所有權ト魅力ト云フ
ソノモ、從來ヨリハ餘程薄ライデ居ル
ヤウニ恩ハレル、之ニ代リマスル耕作
權ト云フヤウナモノハ、稍々上ヅイタ
ヤウナ感ジガアルガ、農民ニ自重心ヲ
大イニ昂メテ貰ヒタイ、耕作スル者ハ
信託セラレタト云フ意味デヤルヤウニ
指導シテ貰ヒタイト云フヤウナ希望的
御意見モ重ネテ出タコトヲ申添ヘテ置
キマス、以上デ大體私ノ報告ヲ終リマ
スガ、先程申上ゲンシタ通り、分類シ
テ申シマシタノデ、各員ノ一問一答、
特ニ其ノ文句ヲ忠實ニ御傳ヘシナカツ
タ爲ニ、質問者ノ持ツテ居ル特殊ヲ出
シ得ナカツタ憾ミハアルト思ヒマス、
此ノ點ハ質問者ヲ含メテノ皆サンニ更
ニ御了解ヲ求メテ、私ノ御報告ヲ終リ
タイト思ヒマス、(拍手)
○議長(公爵徳川家正君) 討論ノ通告
ガゴザイマス、河井彌八君
〔河井彌八君登壇〕

是ハ大正年間カニシタコトデアリマス、先づ自作農創設ノコトハシテ、其ノ經過、沿革ヲ調べテ見マスルト、必ズシモ満足ニ行ツテ居ルト云フ譯デハナイノデアリマス、隨分地主ト云フ者ハ一般的ニ強烈ナ者デアルト云フ考カラ惡ク見ラレテ居ソタ、其ノ地主ガナカヽサウデハナクテ、本當ニ小作人ノ爲ニ土地ヲ開放シヨウト云フ熱意カラ深切ツヨ以テ開放ヲ試ミマシテモ、ナカヽサウハ行カナイ、サウ云フ事實ガ相當ニアルノデアリマス、又一方ニハ地主トシテ、眞ニ小作人ヲ助ケテ、共ニ俱ニ農業經營ヲ勵ムベキデアルニ拘ラズ、實ニ強懲ナ態度ヲ執ツタ者モアルト云フコトデ、ヤア一言ニシテ申シマスレバ、屢々失敗ヲシテ居リマス、失敗ヲシテ居ルト申シテ宜イノダト思フノデアリマス、政府モ亦之ニ對シテ相當ノ努力ヲ致シマシタケレドモ、ナカヽ思フヤウニハ結果ヲ學ゲテ居リマセス、結局ハソレハドウニ云フコトデアルカト申シマスレバ、矢張リ經濟上ノ理由、或ハ社會關係ノ根柢カラ、斯様ナ事實トナツテ現レタモノト考ヘル外ハナイノデアリマス、例ヘバ地主ニナルヨリモ小作ニナツテ居ル方が有利デアル、或ハ社會的ニ闘争セヌガ、所謂階級對立ノ觀念等カラ、寧ロ闘ツテ居ルト云フコトノ方ガ有利シテアルカドウカハ知レマセヌケレドモ、サウ云フ風ナ態度ヲ執ツテ居ル者

ス、斯ウ云フコトニ乘シテ色々ナ策動ヲ試ミタ事實ハ、明カニ擧ツテ居ルノデアリマス、今日ハモウサウ云フ時デハナレバナラヌ一大英斷トナツテ現レタ所ノモノガ、此ノ自作農創設特別措置法案及ビ農地調整法の一部を改正する法律案デアリマス、併シ之ニ對シマシテハ、社會ガ一般ニ相當ノ疑惑ヲ持ツテ居ルノデアリマス、何故カト申シマスレバ昨年ド申シマスルカ、既ニ前議會ニ於テ農地調整法ガ制定セラレタバカリデアル、又之ヲヤル、一體是ハドウ云フ譯カ、急速デアル、而シテ徹底的デアル、サウ云フ點ヲ考ヘテ見マスルト云フト、從來ノ色々ナ經緯カラ頭ノ解放セラレナイ所ノ人達ハ、非常ナ危惧ノ念ヲ懷イテ居ルノデアリマス、現ニ農地改革ノ案が發表セラレマシタ當時、八月ノ月中旬デアリマス、「政府は多數農民を隸屬的生存から解放し經濟民主化を以て農村の封建性を拂拭する」と共に農業生産力發展の基礎を確立するため農地の公平配分を一段と強化徹底する必要あるを認め云々、斯ウ云ふと共に農業生産力發展の基礎を確立するため農地の公平配分を一段と強化するため農地改革案ト云フモノヲ發表サレテ居ルノデアリマス、此ノ農地改革案ノ内容其ノモノト、只今私ガ新聞カ

ハ、關係ガアルカナイカ、政府ハ其ノ通リノ意思ヲ以テ御出シニナツタノアルカドウカハ私ハ分リマセヌケレドモ、併シ是ハ見様ニ依リマスト、實ニ所謂階級ノ爭議、或ハ鬭争ト云フモノヲ茲ニ激發スルノ處ガアルト私ハ考へル、サウシマスルト例ヘバ只今ニ二箇年間ニ於テ、二百萬町歩ヲ開放スルト云フ此ノ計畫ソレ自身モ、果シテ圓滑ニ實行出來ルデアルカドウカト云フコトニ付テハ疑ナキヲ得ナクナルノデアリマス、尙承リマスル所ニ依リマスレバ、農林省ノ玄關ニ農民ガ、農民ノ解放ノ爲ニ挺身セムトスル所ノ職員諸君ニ懇ヘルト云フ貼札ガシテアル、ソレハドウ云フコトカ、見様ニ依リマスレバ全ク惡地主征伐ノ爲ニ、是カラ義勇軍トナツテ飛ビ出シテ行ケ、其ノ有志ヲ募ルノデアルト云フヤウナ意味ニ取レナイコトハナイ、サウ云フ檄文ガ貼ツテアルト云フコトデアリマス、是ハ委員會ニ於テ問題トナツタト云フヨトデアリマス、若シサウ云フヤウナ態度デ、此ノ大切ナ農村ノ民主化、ソレヲ徹底シテ實現シナケレバナラヌ所ノ、此ノ大切な事業ヲ完成スル上ニ於テ、ドノ位邪魔ニナルカ分ラヌト思フノデアリマス、私ハ此ノ點ニ付キマシテハ、實ニサウ云フコトガナイト云フコトヲ信ズルノデアリマスルケレドモ、願ハクアリマス、私ハ此ノ點ニ付キマシテハ、實ニサウ云フコトガナイト云フコトヲ信ズルノデアリマス、今日イ、斯様ニ考ヘルノデアリマス、今日

思想界ノ各方面ヲ見マシテモ、甚ダ穩
權ヲ主張スル、是ハ人權ノ確立ノ根
本的ノ事柄デアリマスルカラ、固ヨ
リ當然デアリマスル、併シナガラ各
人ガ其ノ權利ヲ主張シマスル時ニ、
他人ノ權利ヲ害シテハイケナイ、
共同生活ノ福祉ヲ毀損シテハイケナイ
ト云フコトハ、ドウシテモ守ラナケレ
バナラヌノデアリマス、自分ガ自由ノ
立場デアルダケソレダケ、自ラ自分ノ
頭ノ中ニアル所ノ監督者ニ從ツテ行動
スルコトナケレバナラヌ、是ガ今日
所謂解放セラレタ日本人トシテドレダ
ケ行キ過ギアルカト云フコトハ明カ
ナ澤山ノ事實ガアル、或ハ更ニサウデ
ナクテ、其ノ以上ニ團結權ヲ利用シ
テ、サウシテ所謂階級闘争ノ如キモノ
ニ耽ツテ居ル事實ガアル、ソレガ法規
ノ中ニ嵌ツテ適正デアルカドウカト云
フコトハ、極メテ慎重ナ、極メテ穩健
ナ團體行動ナケレバナラヌノニ、私
ハ今日遺憾ナガラサウデナイト思フ澤
山ノ鬪爭委員長ト云フヤウナ者ヲ、鬪
爭委員會ト云フヤウナモノヲ掲ゲテ、
サウシテ鬪爭ヲスルノダト云フヤウナ
態度ニ出テ居ルコトガ澤山アル、今日
ノ「ゼネスト」ノ如キハ、實ニ恐ルベ
キコトデアル、私ガ聞久所ニ依レバ、
ト云フコトデアリマス、斯ウ云フ風
來年ノ三月迄ハ「ゼネスト」ヲヤルン
ニ、所謂法律デアリマシテモ、是ガ安

ンジテ信用ヲ持ツテ圓滑ニ實施セラレ
ルデアラウカト云フコトニ付テハ、非
常ナ疑惑ヲ懷クト云フコトハ當然ニア
ルト私ハ思フノデアリマス、ソレハ自
作農創設特別措置法ノ第一條ヲ讀ンデ
見マシテモ、是ハ實ニ能ク出來テ居リ
マス、能ク出來テ居リマスルケレド
モ、併シ是ハ見方ニ依リマスト、只今
私ガ心配シタヤウナ、其ノ心配ガハツ
キリ盛ラレテ居ルンダト言ハレテモ仕
方ナイヤウニ考ヘルノデアリマス、ド
ウカ私ハ斯ウ云フヤウナ考ヲ捨テテ、
疑惑ヲ捨テ掛ツテ貰ヒタイ、而シテ
又之ガ執行ノ任ニ當ル所ノ當局ハ勿論
デアリマスルケレドモ、其ノ色々ナ重
大ナ關係ニ立ツ所ノ農地委員ニシマシ
テモ、其ノ他ノ關係者ニ於キマシテ、
虛心坦懐ニ此ノ大事ナ法律ノ實行セラ
レルヤウニ圖ツテ戴キタイト云フコト
ヲ考ヘルノデアリマス、或ハ一體サウ
急イデ矢繼早ニ是ガ出タノハ何デアル
カ、私ハ其ノ内情ハ能ク存ジマセヌ、
全ク存ジマセヌ、併シナガラ之ニ依ツ
テ封建ノ餘勢ヲ拂拭スルノダ、或ハ日
本ノ軍國主義ノ再建ノ基ヲ粉碎スルノ
ダト云フヤウナ説ガアル、是ハ多分外
國カラ出タ所ノ、外國カラ出タト申シ
テハ相濟ミマセヌガ、外國流ノ考ヘ方
デ、日本ハマダ封建的デアル、或ハ軍
國主義ガ又更ニ必ズ起ル、例ヘバ東
サセタト云フヤウナ其ノ根源トナルノ

テハナカト云フヤウナコトヲ心配シ
ノ日本ニハ斷ジテソンナコトハナイ、
斯様ニ考ヘルモノニアリマス、ドウカ
一ツ有ラユル方面ノ心配ヲ除去シテ、
サウシテ虚心坦懐ニ快ク此ノ仕事が出
来マスルヤウニ、官民共ニ努力シテ欲
シイト云フコトガ私ノ考ヘ方デアリマ
ス、只今委員長ノ御報告ニ依リマシテ
モ、私ハ又昨日、一昨日兩日、委員會
ヲ傍聴ニ參リマシタ、其ノ委員會ノ審
議ノ内容ニ付キマシテモ、私ハ非常ニ
質スペキハ質シ、言フベキハ言ウテ委
員諸君ガ實ニ好イ事ヲ言ウテ下スツテ
居ルト思ヒマス、又之ニ對スル政府ノ
答辯モ極メテ穩健デアリ、明快デアツ
テ、流石ニ此ノ法律ヲ實行スルニ於テ
ハ、眞ニ國家ノ爲ニオヤリニナル、其
ノ御氣持ガ能ク現レテ居ツタ思フノ
デアリマス、デアリマスルカラ、委員
長ノ報告ハ簡單デアリマスルケレド
モ、併シ願ハクハ、アノ委員會ノ内
容、或ハ速記錄ト云フモノヲ印刷ニ
デモシテ、速カニ之ヲ天下ニ知ラ
シメテ戴キタイト云フヤウニ考ヘ
ルノデアリマス、ドウシテモ、我々
ハ此ノ際從來ノ考ヘ方ヲ捨テ、眞ニ
自由ソ民トナリ、民主政治ヲ行フト
云フ態度ニ出ナケレバナラヌト私ハ
考ヘルノデアリマス、是ガ過日我々ガ
モノデアリマス、一體我ガ國ハ、古來
全ク封建的デアツテ、或ハ一般ノ人
協賛致シマシタ所ノ新憲法ノ精神其ノ

ハ隸屬的デアル、サウ云フコトデアツテ、眞ニ固有ノ自由思想、或ハ民主主義アラウ、サウ考ヘマスル時ニ、私ハナカタデツタノデハナイ、アツタンダ、封建時代ニ於キマシテモ、斯ウ云モノガアツタンドト云フコトヲ私ハ信ズル者デアリマス、ウレハ封建時代ニ於キマシテモ、特別ノ發達ヲナシテ居ル、即チ私ハ其ノ教ヘヲ奉ジテ居ル所ノ一人デアリマスルガ、二宮尊徳翁ノ教ヘ其ノエノデアル、二宮尊徳翁ガ一生七十年ヲ通ジテ努力シタノハ、此ノ封建時代ニ於テ最モ苦シイ時ニ如何ニ民力ヲ養ヒ、如何ニ民主主義ニ徹底シタ所ノ政治ヲ農村ニ實行シタカト云フ其ノ事實、之ニ依ツテ私ハ證明出來ル思フノデアリマス、モウ一人大原幽學ト云フ學者ガアリマス、此ノ方ノ仕事モ、亦私ハ同様デアルト思フノデアリマス、今日ノ耕地ノ廢合、耕地ノ分配、交換ノ如キモノハ、大原先生ガ既ニ之ヲ實行致シテ居ルノデアリマス、珍ラシイコトデモ何デモナイ、即チソレハドウ云フコトカト申シマスレバ、各個人ガ自分ノ爲ノ利益ノ主張ヲ捨テルノデアリマス、即チ御互ニ他ノ人ノ存在ヲ尊重致シマス、此ノ觀念ハ人ト人ト關係ニ於テモ立ツノデアリマス、物ヲ大ニスル、サウシテ物ノ増加ニ依テ、或ハ人ヲ尊敬スル、人協力、サウシテ物ヲ圓滿ナル社會ヲ作り、生產ヲ増加スル

ル、分配ヲ公平ニスルト云フ此ノ行セ
方デアリマス、言ヒ換ヘバ經濟ト道
徳トガ一致スル、道徳ニ依ツテ經濟ヲ
進メ、經濟ニ依ツテ道徳ヲ完ウスル、此
ウ云フ考ヘ方デアルノデアリマス、上
地ニ付テ申シマシテモ、是ハ昔カラ
我大和民族、大和民族ト云フコトハベ
日惡イカ知レマセヌガ、日本人ノ祖先
ガ昔カラ之ニ依ツテ生存ヲシ、之ヲ神
様カラ受繼イデ來タ大切ナモノテモ
ル、而シテ之ヲ子孫ニズット傳ヘル、
デアル、我々ハ之ヲ管理シ、之ノ力加
發展サセテ、サウシテ永久ニ繁榮ヲ實
イテ行クノダト云フ觀念デアリマス、
デ其ノ方法ト致シマシテハ、第一ニ勞
勞デアリマス、第二ニ分度ヲ立テル、
云フコトデアリマス、而シテ推讓ヲスル、
ス、物ヲ餘シテ推讓ヲスル、結局生産
ヲ十分ニ擴充シテ、サウシテ生活ヲ安
カニスルト云フ考デアリマス、此ノ考
カラ申シマスルト、土地ニ對スル、耕
地ニ對スル地主、小作人ノ關係ハドウ
デアルト申シマスレバ、土地ハ全クウ
分ガ天カラ預ツテ居ル所ノ生産手段モ
アル、是ハ共產主義ノ意味デハアリ
セス、併シ之ニ依ツテ地主モ小作人
モ、共ニ相互ニ勤勞ヲ致シテ、サウニ
テソレニ依ツテ生産ヲ擧ゲテ行ク、
云フ考ヘ方デアリマス、斯ウ云フ考
モ、共ニ相互ニ勤勞ヲ致シテ、サウニ
盛ナル村ニ、或時小作官ガ參リマ
ガアルノデアルカラ、自作農ニナラ
イカト云フコトヲ説メタ、サウスル

ア心持ナノデアル、金ニ對スル氣持ト
物ヲ尊重スル氣持ト、茲ニハツキリ出
テ來ルノデアリマス、私ハ是ハチット
モ不思議デハナイ、是コソ本當ニ農村
ノ淳風美俗デアル、斯ウ云フ風ニ考ヘ
ルノデアル、ソレカラ斯ウ云フ實例モ
アル、靜岡縣ノ庵原村ニ於キマシテ
ハ、非常ニ澤山ノ蜜柑ガ出來ル、而シ
テ收入ガ多イ、昭和十七八年頃、日本
ノ食糧ハ主食糧ガ大分足リナクナツテ
來テ、戰爭ガ思フヤウニ行ツテ居ナ
イ、ソコデ何トカシテ一ツ果樹ヲ
イテ、サウシテ主食糧ヲ作レト云フ命
令ガ出テ居ル、處ガ此ノ庵原村ハ蜜柑
山烟デアル、田ガ少イ、ザアルカラ、
米ハドウシテモ權レナイ、併シ山烟ノ
蜜柑ヲ拔イテシマツタ所デ、直グニソ
レデ食糧増産ト云フコトハ出來ナイ、
サウスルトドウシタカト申シマスレ
バ、其ノ蜜柑ヲ耕作シテ居ル者ガ、其
ノ蜜柑ノ賣上代金カラ、村ノ他ノ一方
ニ於テ米ヲ作ツテ居ル農民ニ對シテ、
一俵ニ付テ十圓ヅ供謝金ヲ出シテ居
ルノデアル、斯ウ云フ考ガ方々ニ起
ヘルノガ今日ノ普通デアリマス、此ノ
ノ儲ケタノダ、之ヲ外ニヤルト云フコ
トハ俺達ノ損害ナノダト云フコトヲ考
ス、サウ云フ考デアリマスカラ、農村
ト云フモノハ本當ニ良ク行クノデア
ル、是ハ昭和十八年カラ實行シタト思
フノデアリマスガ、昭和十八年ニ、一

僕ニ對シテ報謝金トシテ十圓ヅ出シ
テ居ルト云フヤウナ事實ガアルノデア
リマス、即チ共同的ニ生活ヲシ、御互
ヲ尊重シ、御互ヲ助ケテヤツテ行クト
ヲ、其ノ心持ガハツキリトスウ云フ
云フ、其ノ心持ガハツキリトスウ云フ
ノ淳風美俗ガ殘ツテ行クヤウニ、寧ロ
之ガ發展シテ行クヤウニシテ欲シノ
デアル、ソレデナカツタナラバ、初メ
ニ讀上ゲマシタ此ノ法律案ガ新聞ニ出
マシタ時ノ前文ノ如キ結果ニナリマシ
タナラバ、是ハ恐ロシイコトニナル、
斯様ニ考ヘルノデアリマス、モウ一ツ
ノ例ヲ舉ゲテ見マスト、地主ガ供出ス
ル所ノ米ハ一俵二十二圓テ買上ゲラレ
ル、小作人ガ生産者トシテ供出スル場
合ニハ百二十五圓デアツタ記憶致ス
ノデアル、ソコデ或村ニ於キマシテ
ハ、小作人ガ地主ヲ訪ネトシテ參りマシ
テ、一俵ニ付テ五十圓ヅ地主ニ差上
ゲル、贈與スルト云フコトヲ言ヒ出タ
ノデアリマス、ソレハドウ云フコトカ
ト申セバ、アナタモ私モ同ジヤウニ食
糧増産ニ骨ヲ折ツテ居ツタノダ、然ル
ニアナタガ供出スル所ノモノハ、一俵
ニ付テ二十二圓デシカ買上ゲラレナ
イ、私ガ供出スル所ノモノハ百二十五
圓デアル、其ノ差ハ凡ソ百圓、サウス
ルト此ノ百圓ハ自分ガ一人デ取ルベキ
モノニアラズ、ソレ故ニ半分ヲ御返シ
村ニ於テハサウデハナイノデアリマ
ス、サウ云フ考デアリマスカラ、農村
ト云フモノハ本當ニ良ク行クノデア
ル、是ハ昭和十八年カラ實行シタト思
フノデアリマスガ、昭和十八年ニ、一

僕ニ對シテ報謝金トシテ十圓ヅ出シ
テ居ルト云フヤウナ事實ガアルノデア
リマス、即チ共同的ニ生活ヲシ、御互
ヲ尊重シ、御互ヲ助ケテヤツテ行クト
ヲ、其ノ心持ガハツキリトスウ云フ
云フ、其ノ心持ガハツキリトスウ云フ
ノ淳風美俗ガ殘ツテ行クヤウニ、寧ロ
之ガ發展シテ行クヤウニシテ欲シノ
デアル、ソレデナカツタナラバ、初メ
ニ讀上ゲマシタ此ノ法律案ガ新聞ニ出
マシタ時ノ前文ノ如キ結果ニナリマシ
タナラバ、是ハ恐ロシイコトニナル、
斯様ニ考ヘルノデアリマス、モウ一ツ
ノ例ヲ舉ゲテ見マスト、地主ガ供出ス
ル所ノ米ハ一俵二十二圓テ買上ゲラレ
ル、小作人ガ地主ヲ訪ネトシテ參りマシ
テ、一俵ニ付テ五十圓ヅ地主ニ差上
ゲル、贈與スルト云フコトヲ言ヒ出タ
ノデアリマス、ソレハドウ云フコトカ
ト申セバ、アナタモ私モ同ジヤウニ食
糧増産ニ骨ヲ折ツテ居ツタノダ、然ル
ニアナタガ供出スル所ノモノハ、一俵
ニ付テ二十二圓デシカ買上ゲラレナ
イ、私ガ供出スル所ノモノハ百二十五
圓デアル、其ノ差ハ凡ソ百圓、サウス
ルト此ノ百圓ハ自分ガ一人デ取ルベキ
モノニアラズ、ソレ故ニ半分ヲ御返シ
村ニ於テハサウデハナイノデアリマ
ス、サウ云フ考デアリマスカラ、農村
ト云フモノハ本當ニ良ク行クノデア
ル、是ハ昭和十八年カラ實行シタト思
フノデアリマスガ、昭和十八年ニ、一

僕ニ對シテ報謝金トシテ十圓ヅ出シ
テ居ルト云フヤウナ事實ガアルノデア
リマス、即チ共同的ニ生活ヲシ、御互
ヲ尊重シ、御互ヲ助ケテヤツテ行クト
ヲ、其ノ心持ガハツキリトスウ云フ
云フ、其ノ心持ガハツキリトスウ云フ
ノ淳風美俗ガ殘ツテ行クヤウニ、寧ロ
之ガ發展シテ行クヤウニシテ欲シノ
デアル、ソレデナカツタナラバ、初メ
ニ讀上ゲマシタ此ノ法律案ガ新聞ニ出
マシタ時ノ前文ノ如キ結果ニナリマシ
タナラバ、是ハ恐ロシイコトニナル、
斯様ニ考ヘルノデアリマス、モウ一ツ
ノ例ヲ舉ゲテ見マスト、地主ガ供出ス
ル所ノ米ハ一俵二十二圓テ買上ゲラレ
ル、小作人ガ地主ヲ訪ネトシテ參りマシ
テ、一俵ニ付テ五十圓ヅ地主ニ差上
ゲル、贈與スルト云フコトヲ言ヒ出タ
ノデアリマス、ソレハドウ云フコトカ
ト申セバ、アナタモ私モ同ジヤウニ食
糧増産ニ骨ヲ折ツテ居ツタノダ、然ル
ニアナタガ供出スル所ノモノハ、一俵
ニ付テ二十二圓デシカ買上ゲラレナ
イ、私ガ供出スル所ノモノハ百二十五
圓デアル、其ノ差ハ凡ソ百圓、サウス
ルト此ノ百圓ハ自分ガ一人デ取ルベキ
モノニアラズ、ソレ故ニ半分ヲ御返シ
村ニ於テハサウデハナイノデアリマ
ス、サウ云フ考デアリマスカラ、農村
ト云フモノハ本當ニ良ク行クノデア
ル、是ハ昭和十八年カラ實行シタト思
フノデアリマスガ、昭和十八年ニ、一

云フ實例等モアルノデアリマス、斯ウ
テ居ルト云フヤウナ事實ガアルノデア
リマス、即チ共同的ニ生活ヲシ、御互
ヲ尊重シ、御互ヲ助ケテヤツテ行クト
ヲ、其ノ心持ガハツキリトスウ云フ
云フ、其ノ心持ガハツキリトスウ云フ
ノ淳風美俗ガ殘ツテ行クヤウニ、寧ロ
之ガ發展シテ行クヤウニシテ欲シノ
デアル、ソレデナカツタナラバ、初メ
ニ讀上ゲマシタ此ノ法律案ガ新聞ニ出
マシタ時ノ前文ノ如キ結果ニナリマシ
タナラバ、是ハ恐ロシイコトニナル、
斯様ニ考ヘルノデアリマス、モウ一ツ
ノ例ヲ舉ゲテ見マスト、地主ガ供出ス
ル所ノ米ハ一俵二十二圓テ買上ゲラレ
ル、小作人ガ地主ヲ訪ネトシテ參りマシ
テ、一俵ニ付テ五十圓ヅ地主ニ差上
ゲル、贈與スルト云フコトヲ言ヒ出タ
ノデアリマス、ソレハドウ云フコトカ
ト申セバ、アナタモ私モ同ジヤウニ食
糧増産ニ骨ヲ折ツテ居ツタノダ、然ル
ニアナタガ供出スル所ノモノハ、一俵
ニ付テ二十二圓デシカ買上ゲラレナ
イ、私ガ供出スル所ノモノハ百二十五
圓デアル、其ノ差ハ凡ソ百圓、サウス
ルト此ノ百圓ハ自分ガ一人デ取ルベキ
モノニアラズ、ソレ故ニ半分ヲ御返シ
村ニ於テハサウデハナイノデアリマ
ス、サウ云フ考デアリマスカラ、農村
ト云フモノハ本當ニ良ク行クノデア
ル、是ハ昭和十八年カラ實行シタト思
フノデアリマスガ、昭和十八年ニ、一

スレバ、大體是迄ノ普通作ガ一段歩ニ石、陸稻ニ於テ七斗内外テアリマス、之ヲ三石ニ上ゲルト云フコトハ、私ハサウ無理デハナイ、骨ハ折レマスケレドモ行キ得ルト思ヒマス、麥ニ付キマシテハ大體二石五斗位デアリマセウ、是モ私ハ十俵、四石迄ハ上ゲ得ルト思ヒマス、甘譜ニ付テハ三百五十貫、之ヲ千貫ニ上ゲルト云フコトモ、是モ出來ルト思ヒマス、馬鎗薯ニ於テモ二百五十五貫ヲ五百貫ニ上ゲルコトハ出來ルト思ヒマス、只今ノ希望ノ數字デアリマス、希望ノ數字デアリマスケレドモ、併シ私ハ現在モ知レマセヌケレドモ、併シ私ハ現在ノヤウナ生産力ノ低下ト云フコトデナシニ、相當伸バシ得ルモノダト考ヘルモノデアリマス、サウ致シマスレバ、ドウシテモ此ノ三合配給程度ノモノニ行クト云フコトハ、是ハ間違ヒナイ、斯様ニ信ズル者デアリマス、戰爭後土地ハ少クナリ、而シテ人口ハ殖エタ、從ツテドウシテモ食糧ノ増産ト云フコトニ邁進シナケレバナラヌ、即チ有ラユル方法ヲ以テ集約的ノ農法ヲ實行シナケレバナラヌ、只今委員長ノ御擧ゲニナリマシタ方法ト云フモノハ、即座ニ採用ルベキモノデアリマス、テ、只今ノヤウナ方法、私共ハ是ハ自分達ノ増産技術、技術トシテ之ヲ持ツテ居ルノデアリマス、蔬菜ニ付テ申シマシテモ、實ニ驚クベキ成績ヲ擧ゲテ居ル者ハ、一枚ノ畑ヲ八回位作ツテ、蔬菜ヲ生產シ

テ居リマス、是ハ面積ノ無闇ニ種ヤスコトデナシニ、面積ノ種エタト同様ナ力ヲ生産量ヲ現シテ居ルト云フコト心シ、研究ヲ怠ラズニ眞面目ニヤツテ居ル所ノ農民デアリマス、畑一段歩、相當ナ畑ガ一段歩アリマスルナラバ、甘諸ト麥作トヲ之ニ交互ニ使ヒマスレバ、一年ノ生産量ハ以テ八人ノ人口ヲ養フコトガ出來ルト私ハ考ヘテ居ル、デアリマスルカラ、斯様ナ農民ノヤリ方ニ從ヒマシテ、斯様ナ生産力ヲ上げテ行ク方法ヲ普及致シマスナラバ、何デモナイノデアリマス、茲ニ私ハ農民ノ名前ヲ持ツテ居リマスガ、之ヲ學ゲルコトハ致シマセヌ、併シ大體一町五段歩位ヲ耕シテ、其ノ一町五段歩ノ半分ハ自作地デアリ、半分ハ小作地デアル小作人デアル、サウ云フ人達ノ仕事デアリマス、而シテ是等ノ人達が各地ニ指導者トナラテ行々其ノ場合ニ於キマジテハ、日數ノ多イ者ハ、延ニ致シマシテ三箇月以上、或ハ四箇月位ニ亘ツテ不在ニナリマスガ、而モ其ノ人ノ生産力ハチツトモ落チ居ナイト云フコトヲ考ヘマスル時ニ、私ハ是等ノ只今申上ゲマシタ生産標準ガ達セラレナイコトハナイト、斯様ニ考ヘルノデアリマス、小作人デアルカラ生産ガ上ラナイ、小作人ガ搆取セラレルカラ貧乏デアルト云フコトニ付テ私ハ申シタ

他カラ移入シナガレバナラヌ縣デアルト
云フ土地デモ、其ノ指導ノ方法宜シキ
ヲ得レバ、移入ハ立ドコロニ止マルト
私ハ考ヘル、又東京ナリ或ハ大阪ナ
リ、大都市ヲ中心トスル大消費都市ニ
於キマシテモ、ソレニ供給スル所ノ食
糧自給園、供給園ト云フモノヲ作リマシ
テ、ソレニ適當ナ計畫ヲ立テタ所ノ食
糧ノ増産ヲ致シマスルナラバ、食糧ノ
自給自足ト云フモノハ極メテ易ク行ク
ノデナハイカト思フノデアリマス、東
京デ食べル所ノ甘諸ヲ鹿兒島縣カラ取
ル、是ハ事實デアル、皆サンハ御承知
ナイカモ知レマセヌガ、サウ云フ事實
ガアツタ、サウ云フ妙ナコトヲシナク
ツテモ、周圍カラ之ヲ取レバ宜シイ、其
ノ方法ヲ考ヘマスレバ、今後ハ中央政
府ノ仕事が大分地方ニ行キ、地方自
治、府縣單位、或ハ府縣「ブロッタ」單
位ニ於テ、之ヲ考ヘラベキ時ガ來ルノ
デアリマスルカラ、斯様ナ政策ハ出來
得ルノダト私ハ思フノデアリマス、ド
ウカ斯ウ云フ風ニシテ食糧ノ自給自
足、マダヽヽ人口ガ八千萬ニナラウ
ガ、之ヲ超サウガ、チットモ私ハ差支
ナイト斯ウ考ヘマス、之ニ對シシテ
ドウカ政府ハ十分ナ御考慮ヲ願ヒタ
ム、而シテ願クハ此ノ自給政策ヲモウ
捨テテ顧ミナイト云フヤウナ態度デハ
足ルノデアリマス、是ハモウ全ク此ノ
日本ニ對シマシテ、外國カラノ食糧ノ
「ダンピング」ヲ防グコトハ出來ナ
イ、啻デサヘ零細農ニナリ、童デサヘ

有ラユル産業ガ皆小サク縮コマツテシマツタ時ニ、此ノ外國ノ「ダンピング」ヲ許サレタナラバ、是ハ一タマリモナク社會崩壊ノ原因トナルノデアリマス、此ノ點ニ付テハ十分ナ御考慮ヲ願ヒタイノデアリマス、モウ一二申上ゲテ降壇ヲ致シタイト思ヒマス、農地ノ開發、開墾デアリマス、是ハ今日非常ナ力ヲ以テ政府ガ御實施ニナツテ居ル事柄デ、此ノ度私共ガ協賛致シマシタ此ノ豫算ニ於キマシテモ、農地ヲ急ニ開發スル、即チ失業對策ノ一面ト、又食糧増産ノ一面トヲ持ツテ居ル一石二鳥ノ考デアリマスルガ、是ハ大變結構ナコトデアル、併シナガラモウ一ツ考ヘテ戴キタイノハ、從來ノ既墾地ガドンナニ滅ツツ行クカト云フ事實ニアリマス、水田ニ於キマシテ一多カツタ時ハ、私能ク統計ハ分リマセヌガ、二百二十五萬町歩デアツタと思ヒマス、一昨年八百九十二萬町歩ニ減ツテ居リヤス、三十餘萬町歩減ツテ居ル、麥ヲ作ル畑ハドウデアルカト申セバ、多カツタ年ハ九百九十一萬町歩、之ガ百七十二萬町歩ニ減ツテ居リマス、約二十萬町歩減ツテ居リマス、開墾ヲシタカラト云ツテ、ソレデ直グ生産力ガ充實スルモノデアリマセス、殊ニ開墾ヲスル土地トシテ殘ツテ居ルノハ、ドウシテモ生産力ノ乏シイ土地デアリマス、之ニ生産力ヲ十分ヤラウトスルナラバ、ドウシタツテ肥料ガ要ルノデアリマス、一番簡單ニ澤山出來ル所ノ

甘藷ニ付シテ見マシテモ、全クノ荒地ヲ
況ヤ米トカ麥トカ、其ノ他ノモノニ
於キマシテハ、是ハドウシテモ肥料
ガ要ルノデアリマス、今日畜サヘ肥
料ノナイ所ニ、サウ云フモノニ肥料
ヲ投ズル餘地ハ私ハナイト考メル、
私ハ開墾ヲ止シナサイト云フノデハ
アリマセヌ、國家ノ將來ヲ考ヘマスル
時ニ、是ハ必要デアリマス、又失業對
策トシテハ最モ重要ナコトデアリマス
ルガ、之ニ對シテ急速ニ重キヨ置ク所
ノコトハ出來ナイト私ハ考ヘルノデア
リマス、ソレヨリモ水田ニ於テ減ツテ
居ル所ノ三十萬町歩、麥畑ニ減ツテ居
ル所ノ二十萬町歩ヲ先ツ復舊致シタイ
ノデアリマス、此ノ中ニハ色々ナ名義
ニ於テ、會社等ノ特殊ノ蔬菜園、或ハ
耕地ニナツテ居ルノモアリマス、併シ
素人ガヤツテモイケマセヌ、ソレヨリ
ハ之ヲ本當ノ百姓ニ興ヘテ、眞ニ生產
力ヲ増加サセテ戴キタイノデアリマ
ス、是ハ戰爭ノ當時ニ於キマシテ隨分斯
ウ云フ例ハアツタ、殊ニ戰地ニ近イ方
面、例へバ九州南端地方、宮崎縣ノ如
キハ殆ド一萬町歩近ク田畠が潰レテ居
ツタト思フ、之ヲ一ツ回復シテ戴キタ
イノデアリマス、新聞デ見マシタカ
ラ、分リマセヌケレドモ、小麥ヲ四百
萬石餘計明年度ハ作ラナケレバナラヌ
ト云フ計畫ハ、此ノ開墾ノ實施ト云フ
コトニ主眼ヲ入レタナラバ、是ハ不可
能デアリマス、結局ハ今迄ノ既存耕地

ヲ小麥作ニ轉換スルト云フコトノ外ニシモ總計ニ於テハ芳シク出テ來ナイデアラウト云フコトヲ心配スル者デアリマス、モウ一ツ耕地ノ擴張ニ付テ考ヘノデアリマス、砂防ヲ一度上流ニ於テ完成致シマスレバ、此ノ荒廢ハ止マノデアリマス、而シテ下流ニ於テノ大キナ面積ノ廣水域ト云フモノハ、是ハ耕地トシテ立派ニ利用出来るルノデアリマス、現ニ私が報告ヲ得テ居ル所ノ蓮川一本ニ於キマシテモ、三千町歩ハ大變ニ良ク肥エト居ルノデアリマス、殊ニ良ク肥エト居ルノデアリマス、殊ニ良ク肥エト居ルノデアリマス、是等ハ牧畜ニ使フト云フダケナラバ、カニ出來ルト云フコトデアリマス、實ニ良ク肥エト居ルノデアリマス、殊ニ良ク肥エト居ルノデアリマス、サウ云フマスルト、例へバ利根川ニシテモ、或ハ淀川ニシテモ、信濃川ニシテモ、北上川ニシテモ、球磨川ニシテモ、サウ云フ餘地ハ相當ニアルト思フノデアリマス、斯ウ云フ所カラ先づ著手セラタラ宜シト思フノデアリマス、最後ニ申シタイノハ、ソレハ粉食ノコトデアリマス、アリマス、矢張リ私ハ諸狂ヒデアリマス、サウシテ之ヲドウ云フ風ニシテ食ヒガ出テ喋り散ラスト御考ニナルノデアリマス、矢張リ私ハ諸狂ヒデアリマス、ベルカト申シマスト、粉食デアリマス、粉食ガ一番宜シイノデアリマス、

諸ハ出來タト思ヒマス、之ヲドウ始末
スルカ、今日ノ政府ノ管理方法、統制
ノ方法デハナカ／＼始末ガ附カヌト思
フ、願クハ是ハ年來主張シテ居ル所ノ
粉末ニスル、粉末工場ノ活躍ノ外ハナ
イト思フノデアリマス、而シテ是ハ甘
諸バカリデナシニ、馬鈴薯モサウデア
ルト思ヒマス、サウシマスト凡ソ都會
人ニ對シテハ、一日一食ハ麵匏ヲ食ベ
サセタイト思フノデアリマス、是ハ最
モ有效ナ食糧ノ確保方法デアルト信ズ
ルノデアリマス、願クハ之ニ付テ十分
ナル推進ヲ願ヒタイノデアリマス、モ
ウ私ニ對シテハ貴様ハ澤山諸ヲ作ツタ
ガ、併シ今年ハ腐ツテ居ルゾ、私ハ腐
ル諸ハ作ラナイノデアリマス、併シ腐
アル、ザウ云フ事實ガ起ツテ來ル、併
シ私ハ構ヒマセヌ、鬼ニ角觸ソテモ宜
ハ、私カラ外ニ對シテ申シタイ抗議デ
アル、ザウ云フ事實ガ起ツテ來ル、併
シテアリマス、（拍手）私ニ對スル攻撃
アル、ザウ云フ事實ガ起ツテ來ル、併
シテアリマス、是ガ行キマスレバ、實ニ
總テノ產業ノ興隆ノ本トナリ、道義ガ澤
山豐富ニナルカト云フコトヲ見タイン
デアリマス、是ガ行キマスレバ、實ニ
復活スル所ノ本トナル、斯ウ云フ風ニ
シテ行カナケレバナラヌト私ハ思フノ
デアリマス、ドウカ此ノ案ノ成立ヲ機
會ト致シマシテ、斯ウ云フ問題ニ付テ
眞剣ニ努力シテ戴キタイ、斯ウ云フコ
トヲ申シマスルト、一ツノ標準農場ヲ

タヤウナ農場、ア、云フ方法デハ到底
駄目デアリマス、願クハ本當ニ之ヲヤ
ル所ノ百姓、篤農者、特殊農者ヲ中心
トシテ、技術者ハ、技術家ガ之ヲ助ケ
テ仕事ヲ完成スルト云フ迄ニ行ツテ欲
シノンデアリマス、私ハ現ニ木原均博
士ノ品種改良ノ種ヲ取リマシテ、其ノ
種ニ依ツテ如何ニ食糧ハ増産出來ルカ
ト云フ、其ノ方法ヲ實驗中ニアリマ
ハ、言ヒ換ヘレバ、我々ノヤツテ居ル
所ノ食糧增産ノ經驗アル者ニ之ヲ作ラ
セテ居ル、品種改良ニ依ツテ生産ノ倍率
ガ出ア参リマス、併シハ眞ニ栽培法
ノ實施ニ依ツテ其ノ實效ヲ擧ゲテ來ル
ノデナケレバ物足ラナイノデアル、私
ハ兩々相俟ツテ、初メテ效果ヲ全ウス
ルモノデアルト信ズルカラデアリマ
ス、マダ本年ノ成績ヲ私ハ存ジマセヌ
ケレドモ、必ズヤ茲ニ大キナ結果ガ現
レテ來ルト私ハ考ヘルノデアル、私共
ノヤツテ居リマスル所ノ農村ハ斯様ニ
致シマシテ、今日デハ食糧増産ノ面
カラ行キマスレバ、二年デ以テ倍
ニナツタ所モアル、三年デ行ツテ
居ル場所モアル、サツスルト農村ニ紛
争ト云フモノハナインデアル、非常ニ
ムヅカシイ惡い村デモ食糧増産一點張
リデ突込ンデ行キマスルト、皆一緒ニ
ナリマス、ソレハ實ニ和氣飄々タル良
イ村ニナルノデアル、斯ウ云フ村ハ各
地ニアル、是ハ私共サウ云フコトヲヤ

シテ居ル、前カラヤツチ居ル村デ、靜岡縣ノ菅山村、或ハ宮城縣ノ志波姫村、靜岡縣ノ和田岡村、土方村、鳥根縣ノ安田村トカ、實ニ良イ村ガ澤山アルノデアル、是ガ即チ全國ヲ率キル所ノ權範農村デアリマス、模範農場デアツテ模範農村デアリマス、之ニ本當ニ技術者ガ熱意ヲ以テ此ノ仕事ヲ助ケテ戴キタイノデアル、ドウカ私ハ斯様ナ意味ニ於テ、此ソ案ニ贊成シマス 要スルノニ我々ガ是カラヤラナケレバナラヌ所ノ民主政治ハ責任政治デアル、ドウカ當局者ハ勿論、此ノ仕事ニ當ル者ハ、先づ以テ自分ノ責任ヲ盡シテ戴キタイ、是ハ從來誰ガ言ツテモ、其ノ積リデ言ツチモ、責任ヲ忘レテ居ル人が多イノデアル、實ニ是ハイケナイト思ヒマス、第二ニ民主政治ト協力政治デアリマス、御互ニ助ケ合フ、御互ニ感謝ヲ以テ助ケ合フノガ協力政治デアル、自分ガ自分ノ爲ニ物ヲ奪フ、人ヲ牛耳ルト云フノデハナイ、自分ノ全智全能ヲ捧ゲテ人ニ盡ス、是ガ協力政治デアル、私ハ此ノ考ガ徹底セザル限りハ日本ハ滅ビルト思ヒマス(拍手)今日ノヤウナ「ゼネスト」ガ行ハレテ、政府モ之ヲ抑ヘル力ガナク、勝手ニ行ク儘ニ行ツタナラバ、是ハドウナリマスカ、矢張リ個人ガ自ラ考ヘテ、其ノ方向ヲ轉換スルノ外ハナイ、斯様ニ考ヘマス、即チ民主政治ハモウツ申シマスレバ道義政治デアル、道義政治ニス是デトウシテ我が困ツタ今日ノ時局ヲ救ナコトガ出來マセウ、私ハ農民ノ立場カラ、斯様ニ意見ヲ述べマシテ此ノ兩案ニ賛成スル者デアリマス、(拍手)

リマス、後デ申上ゲマスルガ、此ノ補償打切りニ依リマシテ、之ヲ其ノ儘アシテ置ケバ大變ナコトニナリマスルノヲ、何トカシテ善後策ヲ講ジヨウト云フノガ金融機關再建整備法案、企業再建整備法案アリマス、是等ト同ジ・・・小サウゴザイマスガ、矢張リ同ジモノガ、大藏省預金部等損失特別處理法案、矢張リ金融機關ノ一ツアリマスルガ、是ガ丁度金融機關ノ中ニ含マレルノデアリマスガ、別箇ニ掲ツテアルノデアリマス、ソレカラ此ノ金融機關ノ再建、企業再建、之ヲヤリマスルガ、爲ニ、普通ノ商法、民法ノ規定ニ從ヒマスト云フト、破産ガドンノ起ツテ参リマス、成ルベク破産ヲセシメナイヤウニト云フノデ、茲ニ特別和議法案ト云フノガ之ニ伴ウテ必要トナツタ法參リマス、即チ戰時補償特別措置法案ト金融機關再建整備法案、企業再建整備法案、大藏省預金部等損失特別處理法案、特別和議法案、此ノツガ、一ツノ補償打切りノ善後處置トシテ、必要トナツタ法案アリマス、財產稅法案ノ方ハマルキリ別箇ノモノデアリマシテ、是ハ非常ナ國庫收入ニ缺陥ヲ生ジマシテ、公債ヲ以テ賄ヒ切ツテ茲ニ財產稅ト云フ一時限ノ特別ナ稅法ヲ設ケマシテ、之ニ依ツテ二度ニ非常ナ財產ヲ、謂ハバ捲キ上ゲテ赤字ノ補填ノ一部ニ充テル、是ハシテ、ホンノハナラヌノニアリマス、ホンノ

一部ニ充テル爲ニ、四百三十五億圓ト云フ國民ノ財產ヲ取上ゲル、斯ウ云案デアリマス、而シテ財產税ハ到底現金デハ取レマセヌ、從ツテ物納ヲヤラサケレバナラヌ、物納ヲ許スノニハ、不動産、有價證券等ノ處分ハサウ簡便ニ參リマセヌ、政府ノ計畫ニ依リマスト、凡ソ五六年間掛ラナケレバ、此ノ取上ゲタ財產ヲ處分スルコトハ出來ナキマシテハ、其ノ歲入ハ一般會計ノ財源ニ計上シテアルノデアリマスルカラ、ソコデ茲ニ之ヲ財產稅收入ヲ特別會計トシテ、サウシテ特別會計ノ持ツテ居ル財產ヲ引當ニ、日本銀行カラ借入レルナリ、或ハ公債ノ形ニシテ公債ヲ發行セシムルナリシテ、此ノ特別會計ノ負擔ニ於テ徐々ニ計算シテ行ク、詰リソコデ特別會計ヲ設定スル必要ガ起ツタノデアリマス、戰時補償特別措置法案ト云フモノハ、是迄ニ戰時中全融機關ニ對シテモ、製造業者ニ對シテモ、或ハ他ノ生産者ニ對シマシテモ、其ノ外保險會社ニ對シマシテモ、政府ガ命令融資ヲサセ、之ニ保證ヲ與ヘ、サウシテ事業會社ノ工場、設備等ヲドンノヽ擴張サシタ、ソレハ全部政府ガ保證シテ居ツタノデアリマスルが、處ガ、今日デハ御承知ノ通リナ狀況デアリマスルカラ、到底保證義務ヲ大變ナ金高ニ上ル補償金、之ニ依ツ

テ金融機關ハ融通シ、生産業者ハソレニ依ツチ事業ヲ擴張シ、生産品ヲ納メ、製造業者ノ外ニ農民ナドモ食糧、ソレデ其ノ納メタモノガ全部支拂ヲ受ケヌ内ニ、此ノ補償打切りノ案が出来ノデアリマス、政府ニ於キマシテ色工夫サレタヤウデアリマスルガ、結昌八月十五日ト云フモノデ一ツ大キナ娘ヲ引イタノデアリマス、八月十五日ニ大キナ線ヲ入レテ、其ノ前ニ支拂ヲ受ケテ居ル者ハソレデ宜シイ、同ジャウチ性質ノモノデモ、八月十五日以後ニマダ支拂ヲ受ケテ居ラヌ、補償ノ債權ノ請求権ヲ持ツテ居ル者デモ、八月十五日ニ一線ヲ引イテ、其ノ後ハ一切求權消滅ト、斯ウ來タノデアリマス、尙其ノ上ニ八月十五日以後ニ支拂ヲ受ケテ居ル者デモ、ソレハ元ヘ吐キ出云ト云フノデアリマス、其ノ中ニハ全般製品ヲ造ツテ政府ノ命令通り品物ハソラメテ、代金ノ支拂ダケ遲レテ居ツタガアリマス、既ニ代金ヲ受取ツタモノモアルノデアリマスガ、代金ヲ受取タモノモ、八月十五日以後ノモノハ吐き出サセル、其ノ吐ギ出サセルノニ、吐ノ措置法ニ依ツテ、詰リ税ノ形デタル、百分ノ百取ツテシマフ、戰時保険ナドモ同様デアリマス、甚ダシキハ強制疎開ヲサシテ、之ニ對シテ賠償金ヨリル、除外ヲ除ケマシテハ、後ハ全部ヲ打切ルト、斯ウ云フノデアリマスカラ、

一口ニ申シマスレバ、是程無茶ナコトハナイノデアリ
ナイ、是程亂暴ナコトハナイノデアリ
マス、而シテ其ノ金高ハドウナリマス
カト云フト、政府ガ補償ノ義務ヲ帶ビ
テ居ルモノガ八百十億圓程ニナルノデ
アリマス、其ノ中ニ地方公共團體、或
ハ特別ナモノニ對シマシテ、幾分カ除ニ
外ガアリマシテ、ソレヲ差引マスト云
フト、結局六百七十億圓、六百七十億
圓ト云フモノハ全部打切ツチシマフノ
デアリマス、故ニ普通ノ考デ見マスル
ト云フト、是程亂暴ナコトハナク、無
茶ト申シマスルカ、亂暴ト申シマスル
カ、殆ド名狀スペカラザルモノデアリ
マス、併シ能ク考ヘテ見マスルト云フ
ト、其ノ保證シタル國家、國家保證デ
アリマスルガ、國家其ノモノガ、此ノ
無益ナル、サウシテ無暴ナル戰爭、
澹タル敗北ノ爲ニ破産シテシマツタノ
デアリマス、保證人ガ保證ノ義務ヲ果
ス能力ガナクナツタノデアリマス、仕
方ガアリマセス、國ガ此處迄落チ込ン
ダ以上ハ、補償モ何モアツタモノデハ
ナイ、ソコデ國民ハ之ヲ我慢スルヨリ
外仕方ガナインデアリマス、然ルニ之
ヲ斯ウセズニ、政府ガ補償義務ヲ果ス
コトト致シマストドウナリマスカ、サ
ウナリマスト云フト、六百七十億圓程ノ
公債ヲ發行シテ、交付公債デ興ヘル外
仕方ガナイ、啻デサヘ「インフレ」ノ處
ガアリマスノニ、更ニ之ニ六百七十億
圓ノ交付公債ヲ出シマスト云フト、更
ニ「インフレ」ニ拍車ヲ掛ケルコトニナ

リマスノミナラズ、是等ノ事業會社ハ、其ノ工場ハ殆ド破壊サレテ居リマス、又殘ツテ居リマスモノモ、賠償トシテ取ラレルコトニナツテ居リマス、ソレデアリマスカラ、此ノ金ヲ受取ツテ、サウシテ收支計算ヲ致シテ見マスト云フト、「プラスニナリマスケレドモ、實質ニ於キマシテハナクナツテシマツテ居ル、會社ハ潰レテ居ル、ソレヲ此ノ儘ニシテ置キマスルト云フト、所謂擬制資本デ以テ財界ノ整理ハ出来マセヌ、財界整理ノ點カラ申シマシテモ、斯クノ如キ英斷ヲ施ス外ハナイノデアリマス、ソコデ斯様ナ處置ヲ執リマス結果トシテ、事業會社、金融機關等ニ大打撃ヲ與ヘマス、之ヲ此ノ儘ニシテ置キマスルト云フト、總テ破産ヲスルノ外ナイ、ソコデ之ヲドウシテ生ガスカト云フコトヲ工夫シマシタノガ、金融機關再建整備法案、ソレカラ企業再建整備法案ヲ計畫シタ譯デアリマス、其ノ整備ノヤリ方ト致シマシテハ、普通ノ商法等ノ規定ニ依ラズシテヤルノデアリマスルガ、先刻申シマシタ通り、準備トシテ制定致シマシタ法律ニ依ツテ、事業會社モ金融機關モ經理ヲ二ツニ分ケテアリマス、舊勘定ト新勘定トニ分ケテアルノデアリマスガ、其ノ舊勘定ト新勘定ト別ニ致シテシテ整理ヲシテ行クノデアリマス、是等ノ會社ヲ稱シテ特別經理會社、特別經理會社トシテ扱フノデアリマスガ、

マス、ソレ以外ノモノモ入ツテ居ルノ
デアリマスルガ、主トシテ補償打切り
行クカト云フ工夫デアリマス、ソコデ
ニ依ツテ非常ナ損害ヲ蒙ツタ會社、其
ノ會社ヲ整理シテドウヤツテ生カシテ
行クカト云フ工夫デアリマス、ソコデ
特別管理人ト云フモノヲ設ケマシテ、
サウシテ此ノ手ニ依ツテ兩勘定、舊勘
定、新勘定ヲ段々ニ片附ケテ行ツテ、
債權、債務ノ見合ヒヲ附ケテ行ク、ソ
コデ先ヅ企業ノ方カラ申シマスト云フ
ト、企業再建ノ方ニ於キマシテハ、先
ヅ繰越金、ソレカラ積立金ノ全部ヲ以
テ一ツ損失ヲ補填シテ見ル、ソレデイカ
ナケレバノ其ノ次ニハ資產ノ評價替ヲ
スル、今ノ資產ハ餘程前トハ帳簿價額
ガ増シテ居リマスカラ、評價替ヲ相當
許シ、之ニ依ツテ先ヅ補填シテ見ル、
是ダケデ濟メバ、先ヅ立派ナ會社ニナ
ルノデアリマス、ソレデイカナケレ
バ、其ノ次ニ行クノハドウカト申シマ
スト云フト、未拂込ヲ徵收スルノデア
リマス、未拂込ヲ徵收シテモ尙足ラナ
カツタラ、未拂込ヲ込メタ所ノ資本ノ
十分ノ九迄切リ捨テルノデアリマス、
或ハ十分ノ一デ濟ムモノモ、十分ノ二
デ濟ムモノモアリマスガ、十分ノ九迄
切リ捨テル、ソレト同時ニ舊債權ノ十
分ノ七迄切リ捨テル、尙ソレデイカナ
カツタラ、残ツテ居ル資本金ノ十分ノ
一ヲ切リ捨テル、マダイカナカツタ
ラ、舊債權ノ十分ノ七ノ残ツテ居ル三
モ切リ捨テル、斯ウ云フコトニ致シマ
シテ、ソレデイケルカイケヌカノ問題

ヲ決メルノデアリマス、ソレデ尙イケヌモノハ破産、或ハ極ク小サクシテ他ノ會社ニ合併スルカ、或ハ極メテ小規模ニシテ第二會社ニシテシマフ、斯ウ云フコトハ特別管理人ノ手許デ、見當ヲ附ケルノデアリマス、金融機關モ先付テ差ガアリマスルガ、ソレハ細カクナリマスルカラ、速記錄デ御覽ヲ願ヒマス、唯申上ゲテ質キマスガ、法人ノ預金デ五百萬圓以上ノモノハ七割切り捨テルダケ犠牲ヲ少クシヨウト云フヤウニシテアルノデアリマス、ソレデ尙イカル、百萬圓以下ハ三割、下ノ方ハ出來ルダケ犠牲ヲ少クシヨウト云フヤウニシテアルノ他ノ債務ノ七割ヲ切り捨テル、尙足リナカツタラ、殘餘ノ預金ヤ其ノ他ノ債務ノ七割ヲ切り捨テル、スウ云フヤウニシテヤツテ見テ、尙イカナケレバ潰ス、イケバ細々ナガラ生カシテ行クト云フノデアリマス、斯ウ云フ處理ヲヤツテ居ル間ニ色々問題ガ起ツテ來マスカラシテ、此ノ特別和議法ヲ作ツテ、成ルベク破産サセナイヤウニスル、場合ニ依ツテハ「アービトラリー」ニ決メテ、債權者ニ從ハスト云フ、斯ウ云フコトヲヤルノデアリマス、是ダケ考ヘマシテモ、隨分大打擊ヲ考ヘマスト、銀行ヤ會社ナドガ困ル皆ニ掛ツテ來ルノデアリマス、詰リト考ヘマスト、銀行ヤ會社ナドガ困ルヤウニ思ハレマスケレドモ、實ハ我々我々ハ受ケルノデアリマス、チヨツト考ヘマスト、銀行ヤ會社ナドガ困ル

預金者トシテソレダケ切ラレル、是位整理致シマスト云フト、會社ノ株ガ十分ノ一ナラ十分ノ一切リ捨テラレテ、一萬株持ツテ居ルモノハ千株ニ減ルノデアリマス、是ハ場合ニ依ツテハ財産税ヨリ大キイカモ知レマセヌ、事業ヲヤツテ居ル人ハ、此ノ打撃ノ方ガ大キイカモ知レマセヌ、他人事デハナク、我々ニモソレガ掛ツテ來ルノデアリマス、處ガ、委員會ニ於キマシテハ、相當質問ガアリマシタガ、併シ何ト言ウテモ一番先キ多數ノ國民ニ利害關係ガアルノハ財產稅デアリマス、從ツテ財產稅ノ方ガ寧ロ質問ガ多カツタノデアリマス、財產稅ノ方ハ隨分細カイ質問ガアリマシタガ、其ノ中デ諸君ノ御耳ニ入レタイト思フ點ハ、第一ハ財產ノ評價デアリマス、先づ不動產ハ、全國ヲ相當ナ地區ニ分ケテ、其ノ地區ノ是迄汎ツテ居リマスル貯貸價格ノ基準ニナツテ居ルアレヲ標準ニシテ、其ノ地區内ノ事情ノ變化ニ依ツテ、其ノ倍數ヲ掛けテ行クモノハ違ノノデアリマス、貯貸價格ヲ基準ニシテ、或ハ五十倍、或ハ百倍ト云フヤウニシテ、サウシテ地域毎ニ違ツテ、サウシテソレニス、株式ノ方ハドナルカト申シマスト、株式ハ調查委員ヲ設ケマシテ、サウシテ現在ノ状態ニ於テ、其ノ株ノ内容、事業ノ將來性、其ノ外種々ノ條件ヲ加味シテ適當ニ決メルト、斯ウ云云

シタ公債、其ノ國債ニ限ル、其ノ外ノ
公債ハ之ニ當テラレヌ、但シ政府ガ交
付シタ公債ハ宜シイ、斯ウ云フノデア
リマス、第三位ガ社債デアリマス、第
四位ガ有價證券竝ニ不動産、斯ウナツ
テ居リマス、ソレカラ第五位ガ不動産、
第二封鎖預金ハ全體ノ評價財產ノ最後
ノ部分ニ當ナルノデアリマス、百萬圓
假ニ評價財產ガアシタ致シマスル
ト、第二封鎖預金ヲ一番上ヘ置イテ、
最高率ニ掛ル分ニ拂ツテ宜シイ、第二
封鎖ニ當ル分ノ九十萬圓ガ他ノ財產デ
アツテ、十萬圓ダケ第二封鎖預金ガア
ルト致シマスルト、税率ノ最高率ニ持
クテ居タ分ニ拂フ、斯ウ云フコト
ヲ許ス、斯ウ云フノデアリマスガ、大
ソレカラ納稅方法デアリマスガ、大
體ニ於テ手數ヲ省ク爲ニ申告主義ニ依
ル、大體政府ガ近イ内ニ不動産ニ致シ
マシテモ、株式ニ致シマシテモ、皆其
ノ評價ノ何ヲ決メマスカラ、其ノ地區
地圖ノ評價ガ決ル、其ノ所有債券、株
券ノ評價ガ決ルカラ、ソレニ依ツテ自
ラ財產ヲチャント算出シテ、税率ヲ嵌
メテ見テ、サウシテ之ヲ申告スル、申
告スレバ、大體ニ於テ其ノ申告ニ依ツ
テ課稅スル、同時ニ申告シタラ直グニ
納メル、サウシテ問題ガ起ツタラ後デ
増減ガアルカモ知レナシケレドモ、兎
ニ角ソレデ取ツテシマフ、今迄ノ他ノ
所得稅トカ、相續稅見タヤウニ、一々調
べテ稅務署ト打合セテヤツテ行クト云
フノデハナイ、自ラノ申告ニ依ツテ大

體濟マス、斯ウ云フノデアリマス、併
サウハ行カナイカモ知レマセヌ、是ガ
一番大事ナ點ダラウト思ヒマスガ、ソ
コデ委員會ニ於キマシテ、財產稅ノ問
題ニ付キマシテモ、色々後デ打合セマ
シテ、皆ガ大事ナ點思フ問題ニ付キ
マシテ、全委員ノ申合セノ上デ、委員
長ガ代表シテ政府ニ質問致シタノデア
リマス、モウ一ツ申落シマシタガ、調
査委員ガ出來マスガ、財產稅ノ惑ミト
云フ時ニハ、調査委員ヲ設ケマシテ、
其ノ調査委員デ稅額ヲ決メルコトニナ
リマス、私ガ委員長トシテ之ニ對シテ
代表シテ質問致シマシタノハ、四ツ程
アルノデアリマスガ、其ノ第一ガ先刻
申シタ納稅ノ順位ニ不動産ト、ソレカラ
有價證券、是ガ同一順位ニナツテ居リ
マス、其ノ同一順位ト云フ外ニ、主稅
局ナドノ考デハ、不動產デモ大藏省ト
シテ成ルベク早ク現金ニ換ヘラレルモ
ノカラ取ツテ行カウト、斯ウ云フ心持
ヲ持ツテ居ルヤウデアリマス、ソレカラ
ラ有價證券ニ致シマシテモ、成ルベク
上場株ノ良イモノヲ取ツテ行ク、金ニ
ナリ易イモノカラ取ツテ行クト云フコ
ト、是ハ御尤モダラウト思ヒマスケレ
ドモ、處ガ、段々聽イテ見マスルト、
其ノ選擇ハ納稅者ト稅務署ノ人トノ話
合ニ依ツテ決メル、斯ウ云フコトガ出
來タノデアリマスルガ、ソレデ矢張リ
根ニハ、サウ云フ腹ヲ持ツテ居ル、政

ス、處ガ、納稅者カラ申スト、ナカナ
シ大ギイモノニナリマスト、ナカノ
サウハ行カナイカモ知レマセヌ、是ガ
一番大事ナ點ダラウト思ヒマスガ、ソ
コデ委員會ニ於キマシテ、財產稅ノ問
題ニ付キマシテモ、色々後デ打合セマ
シテ、皆ガ大事ナ點思フ問題ニ付キ
マシテ、全委員ノ申合セノ上デ、委員
長ガ代表シテ政府ニ質問致シタノデア
リマス、モウ一ツ申落シマシタガ、調
査委員ガ出來マスガ、財產稅ノ惑ミト
云フ時ニハ、調査委員ヲ設ケマシテ、
其ノ調査委員デ稅額ヲ決メルコトニナ
リマス、私ガ委員長トシテ之ニ對シテ
代表シテ質問致シマシタノハ、四ツ程
アルノデアリマスガ、其ノ第一ガ先刻
申シタ納稅ノ順位ニ不動産ト、ソレカラ
有價證券、是ガ同一順位ニナツテ居リ
マス、其ノ同一順位ト云フ外ニ、主稅
局ナドノ考デハ、不動產デモ大藏省ト
シテ成ルベク早ク現金ニ換ヘラレルモ
ノカラ取ツテ行カウト、斯ウ云フ心持
ヲ持ツテ居ルヤウデアリマス、ソレカラ
ラ有價證券ニ致シマシテモ、成ルベク
宅ハ最後ニ取ルト云フコトノ積リ居
ルヤウデアリマスケレドモ、自己ノ住
宅ヲ手離スコトハ、人間トシテヨクヨ
クノコトデナケレバ忍ビナイコトデア
リマスカラ、十分徹底サスト云フコト
ハレタク、是ハ非常ニ大事ナコトデア
リマスカラ、十分徹底サスト云フコト
デアリマシタ、以上ノ四ツノ質問ニ對
シマシテ、今申シマシタヤウナ次第デ
アリマス、是デ質問ヲ終了致シマシ
テ、昨日ノ午後ニナツテ討論ニ入リマ
シタ、有馬忠三郎君、板谷順助君、小
山完吾君、河西豊太郎君、此ノ四君ヨ
リ、孰レモ是等諸案ハ、我ガ國現下ノ
情勢上已ムヲ得ナイト思フカラ、是ニ
ハ贊成スルケレドモ、實際ニ當ツテ、
ハ勸業銀行等ヨリ融通セシメテ、年
賦ヲ以テ之ヲ償還セシムル、サウス
レバ政府ノ方モ現金ガ早ク取レテ宜
シイデヤナイカト云フ、斯ウ云フ質問
ヲシマシタラ、ソレモ宜シイト云フコ
トデアリマス、サウヤルト言ツタノデ
アリマス、第三ハ稅務署ノ役人ハ不斷

理解シ、徹底セシメ納得シテ、法ノ意圖
デモ多忙デアル爲ニ、納稅者ヲ粗末ニ
扱ヒ易イ、サウ云フ非難ガ隨分アリマ
スルガ、今度又、財產稅其ノ他大變ニ
稅務ガ殖エテ參ツタノデアリマスルカ
ラシテ、斯ウ云フ場合ニ免角納稅者ニ
對シテ懇切ヲ缺ク慮ガアルト思フカラ、
各質問シタノハ、有價證券ト不動產ハ
同一順位ニナツテ、其ノ選擇ハ稅務署
マシテ、全委員ノ申合セノ上デ、委員
長ガ代表シテ政府ニ質問致シタノデア
リマス、モウ一ツ申落シマシタガ、調
査委員ガ出來マスガ、財產稅ノ惑ミト
云フ時ニハ、調査委員ヲ設ケマシテ、
其ノ調査委員デ稅額ヲ決メルコトニナ
リマス、私ガ委員長トシテ之ニ對シテ
代表シテ質問致シマシタノハ、四ツ程
アルノデアリマスガ、其ノ第一ガ先刻
申シタ納稅ノ順位ニ不動産ト、ソレカラ
有價證券、是ガ同一順位ニナツテ居リ
マス、其ノ同一順位ト云フ外ニ、主稅
局ナドノ考デハ、不動產デモ大藏省ト
シテ成ルベク早ク現金ニ換ヘラレルモ
ノカラ取ツテ行カウト、斯ウ云フ心持
ヲ持ツテ居ルヤウデアリマス、ソレカラ
ラ有價證券ニ致シマシテモ、成ルベク
宅ハ最後ニ取ルト云フコトノ積リ居
ルヤウデアリマスケレドモ、自己ノ住
宅ヲ手離スコトハ、人間トシテヨクヨ
クノコトデナケレバ忍ビナイコトデア
リマスカラ、十分徹底サスト云フコト
ハレタク、是ハ非常ニ大事ナコトデア
リマスカラ、十分徹底サスト云フコト
デアリマシタ、以上ノ四ツノ質問ニ對
シマシテ、今申シマシタヤウナ次第デ
アリマス、是デ質問ヲ終了致シマシ
テ、昨日ノ午後ニナツテ討論ニ入リマ
シタ、有馬忠三郎君、板谷順助君、小
山完吾君、河西豊太郎君、此ノ四君ヨ
リ、孰レモ是等諸案ハ、我ガ國現下ノ
情勢上已ムヲ得ナイト思フカラ、是ニ
ハ贊成スルケレドモ、實際ニ當ツテ、
ハ勸業銀行等ヨリ融通セシメテ、年
賦ヲ以テ之ヲ償還セシムル、サウス
レバ政府ノ方モ現金ガ早ク取レテ宜
シイデヤナイカト云フ、斯ウ云フ質問
ヲシマシタラ、ソレモ宜シイト云フコ
トデアリマス、サウヤルト言ツタノデ
アリマス、第三ハ稅務署ノ役人ハ不不斷

ス、處ガ、納稅者カラ申スト、ナカナ
シ大ギイモノニナリマスト、ナカノ
サウハ行カナイカモ知レマセヌ、是ガ
一番大事ナ點ダラウト思ヒマスガ、ソ
コデ委員會ニ於キマシテ、財產稅ノ問
題ニ付キマシテモ、色々後デ打合セマ
シテ、皆ガ大事ナ點思フ問題ニ付キ
マシテ、全委員ノ申合セノ上デ、委員
長ガ代表シテ政府ニ質問致シタノデア
リマス、モウ一ツ申落シマシタガ、調
査委員ガ出來マスガ、財產稅ノ惑ミト
云フ時ニハ、調査委員ヲ設ケマシテ、
其ノ調査委員デ稅額ヲ決メルコトニナ
リマス、私ガ委員長トシテ之ニ對シテ
代表シテ質問致シマシタノハ、四ツ程
アルノデアリマスガ、其ノ第一ガ先刻
申シタ納稅ノ順位ニ不動産ト、ソレカラ
有價證券、是ガ同一順位ニナツテ居リ
マス、其ノ同一順位ト云フ外ニ、主稅
局ナドノ考デハ、不動產デモ大藏省ト
シテ成ルベク早ク現金ニ換ヘラレルモ
ノカラ取ツテ行カウト、斯ウ云フ心持
ヲ持ツテ居ルヤウデアリマス、ソレカラ
ラ有價證券ニ致シマシテモ、成ルベク
宅ハ最後ニ取ルト云フコトノ積リ居
ルヤウデアリマスケレドモ、自己ノ住
宅ヲ手離スコトハ、人間トシテヨクヨ
クノコトデナケレバ忍ビナイコトデア
リマスカラ、十分徹底サスト云フコト
ハレタク、是ハ非常ニ大事ナコトデア
リマスカラ、十分徹底サスト云フコト
デアリマシタ、以上ノ四ツノ質問ニ對
シマシテ、今申シマシタヤウナ次第デ
アリマス、是デ質問ヲ終了致シマシ
テ、昨日ノ午後ニナツテ討論ニ入リマ
シタ、有馬忠三郎君、板谷順助君、小
山完吾君、河西豊太郎君、此ノ四君ヨ
リ、孰レモ是等諸案ハ、我ガ國現下ノ
情勢上已ムヲ得ナイト思フカラ、是ニ
ハ贊成スルケレドモ、實際ニ當ツテ、
ハ勸業銀行等ヨリ融通セシメテ、年
賦ヲ以テ之ヲ償還セシムル、サウス
レバ政府ノ方モ現金ガ早ク取レテ宜
シイデヤナイカト云フ、斯ウ云フ質問
ヲシマシタラ、ソレモ宜シイト云フコ
トデアリマス、サウヤルト言ツタノデ
アリマス、第三ハ稅務署ノ役人ハ不不斷

法案ニ依リマスト云フト、富ノ均分ト云フ言葉ガ使ハレテ居ル、果シテ此ノ言葉ガ現在ノ財産税ヲ取上ゲラレル一時的ノモノデアルナ宣シイ、併シナガラ若シ此ノ富ノ均分ト云フ言葉ガ、永遠ニ國家國民ノ間ニ流レルトシマジタナラバ、我ガ國ノ興隆、國家ノ振興ハ不可能デアルト私ハ信ズルモノデアリマス、此ノ言葉ノ意味ニ於テ、此ノ際政府ニ警告ヲ致シテ置キマス、又此ノ財産税ニ依ツテ戰時成金ハ別問題ト致シマシテ、多年先祖傳來、所謂勤儉努力ニ依ツテ蓄積シタル所ノ資產ヲ失フコトデアリマスカラ、國家今日非常ノ際ニ於ケル、所謂國家再建ノ爲ニハ已ムヲ得ザルコトデアルト云フコトヲ、國民ニ對シテ能ク納得サセ、能ク理解サセルト云フ必要ガアルト考ヘルノデアリマス、御承知ノ通り敗戦後ニ於ケル所ノ我が國民ノ狀態ハ、所謂虛脫狀態、此ノ虛脫狀態カラ脱却ヲ致シテ、所謂捨身ニナル、自主的ニ如何ニシテ此ノ國家ヲ再建セネバナラヌカト云フ、此ノ奮發心ヲ起サセルト云フコトニ付テ、政府ハ出來ルダケ、此ノ方面ニ對スル努力ヲスル必要ガアルト存ズルノデアリマス、又是等ノ法案ニ對シマシテハ、會期切迫、時日ノナイ所カラ、我々ハ此ノ重要ナ法案ニ對シテ、十分ノ審議ヲ盡スコトハ出來マラ、已ムヲ得ズ是ハ承服ハ致シテ

居リマスルケレドモ、併シナガラ私ハ
今後此ノ法案ノ實施ニ當リマシテ、聯
合國ニ於キマシテモ、我ガ國ノ再建ニ
付テハ、絶大ノ援助ヲサレルト云フコ
トハ信ジテ疑ハヌノデアリマス、從ツ
テ此ノ法案ノ運用ニ付テハ、政府當局
ニ於キマシテハ、所謂廣義ニ解釋シ、
又聯合國ノ意思ニ反セザル程度ニ於
テ、能ク了解ヲ求メ、能ク理解ヲ求
メ、而シテ最モ公平ニ、國民ノ怨府ニ
ナラザルヤウナ方針ニ依ツテ運用シテ
貰ヒタイト考ヘルモノデアリマス、
又更ニ只今委員長ノ報告サレマシタ通
リ、補償打切り、或ハ企業再建ト云フ
コトニ付キマシテハ、先般委員會ニ於
テハ、資產ノ評價トナルベキ所ノ基準
ガ發表サレテ居リマセヌ、政府當局ノ
説明ニ依リマスレバ、此ノ基準ハ、最
近ニ於テ調査研究、出來ルダケ早ク發
表スルト云フ言明ガアツタノデアリマ
スルガ、要スルニ、所謂世間ノ稱スル
所ノ擬制資本ナルモノノ整理スルト云
フコトニ付テ、又我ガ國ガ今後其ノ結
果、再建ノ上、健全ナル所ノ產業ヲ打
立テルト云フコトニ付テ、此ノ基準ナ
ルモノガ、大ナル役割ヲ演ズルト云フ
コトハ言フ迄モナイコトデアリマス、
デアリマスルカラ、私ハ政府ニ於カレ
マシテモ、此ノ法案ヲ十分ニ活用シ
テ、徹底的ニ後顧ノ憂ナナイヤウニ、
所謂健全ナル所ノ產業ノ確立スルコト
ニ付テノ、十分御配慮ヲ願ヒタイト希

建ノ問題ニ付キマシテハ、私ハ非常ニ不満ヲ懷イテ居リマス、所謂其ノ扱ヒ方ナルモノハ極メテ不公平デアリマス、詳シクハ申上ゲマセヌガ、國家ガ負擔スペキ、國家ノ責任ニアルモノヲ、國民ニ之ヲ轉嫁シテ居ル、デアリマスカラ、是等ノ問題ニ付テハ、ドウカ政府ガ其ノ善後處置ニ付キマシテ十分ノ策ヲ立て、國民ヲシテ其ノ間ニ甲乙ノ差別ナキ萬全ノ策ヲ執ラレムコトヲ、其ノ意味ニ於キマシテ私ハ政府ニ警告ヲ致シテ置キマス、更ニ又財産稅ノ問題ニ付キマシテハ、只今委員長ヨリ報告ガアリマシタガ、要スルニ其ノ評價ノ基準、又果シテ是ガ適正公平ニ行ハレルカト云フコトガ重大ナ問題デアリマス、委員會ニ於ケル所ノ政府當局ノ發表ニ依リマスルト、四百三十五億ノ金ヲ取ルト言シテ居ル、是ハ大體見込通り誤ガナイト信ズルト云フ辯論ニアル、恐ラクハ各管内ニソレドヽ割當ヲスルデアリマセウ、割當ヲシタ場合ニ於テ、果シテ苛斬誅求ガ行ハレナイカ、此ノ意味ニ於テ、只今委員長ハ之ニ對スル委員會ニ於ケル所ノ警告ヲ發シタ、之ニ對スル政府ノ聲明ヲ得ラレタノデアリマスルガ、要スルニ國民カラ、財產ヲ取上ゲルコトデアリマスルカラ、極メテ公平ニ、國民ノ怨府タラザラムヤウニ十分ノ注意ヲスペキコトデアリマス、又只今委員長カラモ御詫ガアリマシタル通り、納稅ノ順序ニ付キマシテハ、株券或ハ不動產ノ如キモノ

ハ、納稅者ノ選擇ニ依ルト云フコトニ付テ、政府ガ言明ヲサレタノデアリマス、要スルニ是ハ貴族院ノ委員會ニ於ケル所ノ收穫デアリマス、貴族院ニ於ケル所ノ收穫デアリマス、デアリマスカラ、ドウカ此ノ點ハ政府當局ニ於ケル所ノ收穫デアリマス、貴族院ニ於ケル所ノ收穫デアリマス、ニ對シテ徹底スルヤウナ御配慮ヲ此ノ際希望致シテ置キマス、更ニ私ハ此ノ際日本ヲ再建スルト云フコトニ付キマシテハ、何ト言ツテモ勞資調整、是ガ先決問題デアリマス、今日ノ如ク労働争議ガ行ハレ、斯カル狀態ガ長ク續キマシタナラバ、現在ノ所謂事業家ニ於キマシテハ、労働爭議ヲ嫌ガツテ生産意欲ガ乏シイ、進ンデヤル氣持ニナラナイ、又労働者側ニ於キマシテモ、權利ノミヲ主張シテ、義務ヲ忘レ、從ツテ勤労意欲ト云フモノガ極メテ薄弱、コソナコトガ若シ長ク續キマシタナラバ、恐ラクハ勞資トモ共倒レデアル、（拍手、「同感」ト呼フ者アリ）其ノ結果ドウナル、其ノ結果日本ガ破滅ニ瀕スルト云フヤウナ狀態ニナル、是ハ火ヲ賭ルヨリモ炳カデアリマス、私ハ現在ノ我が國ノ狀態ハ「アメリカ」ノ如ク、「イギリス」ノ如キ資本家ト労働者ガ區分サレチヤ居ナイ、現在我が國ニ於キマシテハ、御承知ノ通り資本家ラシイ資本ナドアリハシナイ、何ト言ツテモ途ハ無イノデアリマス、故ニ今後我ガ之ヲ活カシテ、國力ノ回復ヲスル以外ニ

國ノ產業ヲ發展スル上ニ於キマシテハ、從來ノ資本主義ハ弊害モアツタデアリマセウ、併シナガラ新タニ打立テラレタ所ノ資本主義、此ノ資本主義ニ依ラザル限リハ、決シテ日本ノ再建ハ思ヒモ依ラヌト私ハ信ズルモノデアリマス、例ヘバ社會政策勿論結構、社會政策モ或程度迄、所謂國民ノ福利ノ爲實行セネバナラヌコトハ當然デアリマスルガ、平時ニ於テ、國家ノ財政ガ裕カデアルナラバ、徹底のニ行フコトモ出來ルデアリマセウ、現在復興ニ對シマシテモ、住宅營團ハ所謂我ガ國ノ財政ハ一體ドウデアルカ、卑近ナ例ヲ申シマスルナラバ、戰災地ノ復興ニ對シマシテモ、住宅營團ハ所謂民間ニ於キマシテハ如何ナル工夫ヲシテモ、如何ナル努力ヲ致シマシテモ、今日立派ニ家ガ建ツテ、復興シテ居ルデハナイカ、大體私方申上げル迄モナク、事業家トカ、或ハ労働者トカ申シマスルケレドモ、是ハ觀念ノ問題ニ依ツテ、人ニ依ツテ區別サレテ居ル譯デハナイ、現ニ戰爭以來、從來勤勞大衆ト稱セラレタル者ガ事業家トナリ、資本家トナツテ、今日立派ニ營業シテ居ルデヤナイカ、本人ノ勤勉努力ニ依ツテ、何時デモ事業家トナリ、資本家ナリニナルコトガ出來ル、デアリマスルカラ、私ハ政府ガ此ノ問題ニ對シテ、信念ト勇氣トヲ以テ、若シ現在ノ我ガ國ノ情勢、我ガ國ノ產業復興ノ上ニ於

テ、資本主義ヲ基調トシテ行カナケレ
バナラスト云フ信念ガアツタナラバ、
堂々ト發表スルガ宜シイ、間違ツテ居
ルナラバ聞達ツテ居ルヤウニ發表サレ
レバ宜シイ、大體世界ニ於ケル共産主
義ハイザ知ラズ、如何ナルモノデアル
カ分ラヌ、併シナガラ現在ニ於ケル共
産主義者ノ行動、勿論労働組合ハ尊重
セネバナラヌガ、此ノ行キ過ギニ對シ
テ、政府ハ信念ト勇氣トヲ以テ之ヲ解
決スベキモノデハナイカ

〔副議長退席、議長著席〕

私ハ斯カル國家、國民ヲ誤ルガ如キ共
産主義、共産主義ガ果シテ日本ノ建設
ヲ考ヘテ居ルノカ、彼等ハ破壊ヲ考ヘ
テ居ルノデアルカ、我々ハ此ノ點ニ對
シテ政府ガ徹底的ニ之ニ對スル善後處
置ヲ講ズルト共ニ、我々國民ニ於テモ
所謂輿論ノ力ニ於テ、斯カル矯激ナル
所ノ共産主義ハ絶対ニ排撃シナケレバ
ナラスト私ハ信ズル者アリマス、(拍
手)以上ノ希望條件ヲ附シマシテ、本
案ニ賛成スルモノデアリマス(拍手)

○議長(公爵徳川家正君) 別ニ御發言
モナケレバ、十二案ノ採決ヲ致シマ
ス、十二案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御
異議ハゴザイマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○議長(公爵徳川家正君) 御異議ナ
ト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第
二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス
○子爵梅園鶯彦君 賛成

○議長(公爵徳川家正君) 御異議ナ
ト認メマス
○子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第
三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス
○子爵梅園鶯彦君 賛成
○議長(公爵徳川家正君) 西大路子爵
ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○議長(公爵徳川家正君) 御異議ナ
ト認メマス
○議長(公爵徳川家正君) 本請願ハ請
願委員長ノ報告通り採擇スルコトニ御
異議ゴザイマセヌカ
午後二時一分散會

○議長(公爵徳川家正君) 西大路子爵
ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○議長(公爵徳川家正君) 御異議ナ
ト認メマス

右ノ請願ハ木次線木次驛ヨリ島根縣
飯石郡掛合村ヲ經テ鹽崎線三次驛ニ
達スル區間ハ曩ニ豫定線ニ編入セラ
レタルモ未タ著工ニ至ラス現在省營
全部ヲ問題ニ供シマス、十二案全部、
委員長ノ報告通り御異議ハゴザイマ
セヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家正君) 御異議ナ
ト認メマス
○子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第
三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス
○子爵梅園鶯彦君 賛成
昭和二十一年 月 日
貴族院議長 公爵徳川 家正
内閣總理大臣吉田茂殿

○議長(公爵徳川家正君) 本請願ハ請
願委員長ノ報告通り採擇スルコトニ御
異議ゴザイマセヌカ
午後二時一分散會

○議長(公爵徳川家正君) 十二案ノ第
三讀會ヲ開キマス、十二案全部、第二
ト認メマス、是ニテ散會致シマス
スカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○議長(公爵徳川家正君) 御異議ナ
ト認メマス
○議長(公爵徳川家正君) 日程第十
七、請願、會議